

# HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure

HP Operations Manager for Windows®、HP-UX、Linux、および Solaris 用

ソフトウェア バージョン : 2.00

---

## インストール ガイド

ドキュメント リリース日 : 2011 年 5 月 (英語版)

ソフトウェア リリース日 : 2011 年 5 月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP の製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2009-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Microsoft® および Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Adobe®, Acrobat®, PostScript® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java は、Oracle またはその関連会社の登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このガイドの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

**<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>**

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>** (英語サイト)

または、HP Passport のログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトを参照してください。

**[www.hp.com/go/hpsoftwaresupport](http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport)**

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア サポート Web サイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア カスタマとの意見交換
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザー ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>** (英語サイト)

アクセス レベルに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**

# 目次

第 1 章 はじめに	7
このマニュアルで使用する命名規則	7
Infrastructure SPIs DVD の内容と説明	8
Systems Infrastructure SPI	8
Virtualization Infrastructure SPI	8
Cluster Infrastructure SPI	8
Infrastructure SPIs 用のレポート パッケージ	9
Infrastructure SPIs 用のグラフ パッケージ	9
製品ドキュメント	9
ディスク領域の要件	10
サポートしているプラットフォーム	11
サポートしている管理サーバーのプラットフォーム	11
サポートしている管理ノードのプラットフォームおよび Agent バージョン	11
サポートしているクラスタ	12
サポートしている Performance Agent のバージョン	12
サポートしている HP Performance Manager のバージョン	12
サポートしている HP Reporter のバージョン	12
ソフトウェアのライセンス	13
言語オプション	14
第 2 章 Infrastructure SPIs のインストールまたはアップグレード	15
Infrastructure SPI 2.00 のインストール	15
HPOM for Windows 管理サーバーへのインストール	15
有人インストール	15
無人インストール	19
HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール	20
有人インストール	20
無人インストール	22
Infrastructure SPIs のクラスタ環境へのインストール	23
HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール	23
HP Performance Manager が別のシステムにインストールされている場合のグラフ パッケージのインストール	24
インストールの確認	24
HPOM for Windows 管理サーバー	24
HPOM for UNIX 管理サーバー	24
HPOM for Windows のノードでの自動配布の無効化	25
HPOM for UNIX のノードでの自動配布の無効化	26
Infrastructure SPIs のバージョン 2.00 へのアップグレード	27
ノードでのツールの配布	27
Infrastructure SPIs のアップグレード	27
アップグレード結果	28
Operating System SPIs から Infrastructure SPIs への移行	29
第 3 章 Infrastructure SPIs のコンポーネント	31

HPOM for Windows での Infrastructure SPIs のコンポーネント	31
サービス	31
Virtual Infrastructure の検出	31
クラスタ インフラストラクチャの検出	32
サービス タイプ モデル	32
ノード グループ	35
ツール	35
ポリシー管理	36
レポート	37
グラフ	38
HPOM for UNIX での Infrastructure SPIs のコンポーネント	39
サービス	39
Virtual Infrastructure の検出	39
クラスタ インフラストラクチャの検出	39
ポリシー管理	39
ツール	40
レポート	41
グラフ	41

## 第 4 章 作業の開始

HPOM for Windows	43
管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布	43
仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行	44
クラスタ インフラストラクチャでの検出ポリシーの実行	44
Quick Start ポリシーの HPOM for Windows からの配布	45
HPOM for UNIX - 作業の開始	46
管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布	46
仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行	46
クラスタ インフラストラクチャでの検出ポリシーの実行	47
Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX からの配布	47
レポートとグラフの表示	49
HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合	49
SPI アップグレード後のレポートの更新	49
レポート用のデータ収集	50

## 第 5 章 Infrastructure SPIs の削除

ディスク領域の要件	53
Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール	53
Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール	53
Windows 管理サーバーからの個別の Infrastructure SPIs の有人アンインストール	54
Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール	55
UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール	56
UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール	56
コマンド行インターフェースを使用した UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール	57
UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール	57
クラスタ サーバー環境からの Infrastructure SPIs の削除	57





# 第1章 はじめに

Smart Plug-ins for Infrastructure (Infrastructure SPIs) は、HP Operations Manager (HPOM) と完全に統合されたソフトウェア スイートを形成します。Infrastructure SPIs は、HPOM の管理範囲を拡大し、システム、高可用性クラスター (HA クラスター)、仮想インフラストラクチャなど、企業全体に分散しているベースインフラストラクチャの監視を可能にします。Infrastructure SPIs は、ドメイン間の IT インフラストラクチャ イベントを関連するアプリケーションに関連付け、それらのイベントを階層サービス マップにマップします。

## このマニュアルで使用する命名規則

このドキュメントでは、以下の命名規則を使用します。

命名規則	説明
HPOM for UNIX	HPOM on HP-UX、HPOM on Linux、および HPOM on Solaris を総称します。これらは、個々に次のオペレーティング システムを識別するために使用されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• HPOM on HP-UX</li><li>• HPOM on Linux</li><li>• HPOM on Solaris</li></ul>
Infrastructure SPI	HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure を指します。このソフトウェア スイートには、以下の 3 つの Smart Plug-in が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure</li><li>• HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure</li><li>• HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure</li></ul>
SI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure
VI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure
CI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure

# Infrastructure SPIs DVD の内容と説明

Infrastructure SPIs のメディアには、ソフトウェア、ドキュメント、および該当するレポート パッケージ、グラフ パッケージが含まれています。

## Systems Infrastructure SPI

SI SPI は、個々のシステム インフラストラクチャのパフォーマンスを監視し、障害管理も行います。容量、可用性、使用率などの監視要素に基づいてシステム パフォーマンスを分析できます。Infrastructure SPIs メディアから、VI SPI、CI SPI、レポート パック、グラフ パックなどの他のコンポーネントをインストールする場合、SI SPI をインストールする必要があります。SI SPI は、次のシステム リソースを監視します。

- CPU
- メモリ
- NIC
- ディスク
- ファイル システム
- HP ProLiant サーバーのハードウェア正常性

## Virtualization Infrastructure SPI

容量、使用率、可用性、リソース消費量などの監視要素に基づいてホストおよびゲスト マシンのパフォーマンスを分析できます。VI SPI は、HP Performance Agent が提供するパフォーマンスと設定情報用のメトリックを使用します。VI SPI は、次の仮想化インフラストラクチャを監視します。

- VMware ESX /ESXi サーバー、サーバー上でホストされる仮想マシン、リソース プール、VMware データセンター
- Microsoft Windows 2008 Hyper-V サーバーおよびそれらのサーバーでホストされている仮想マシン
- HP Integrity Virtual Machines (HPVM) ホストとゲスト マシン
- Oracle Solaris ゾーン
- AIX IBM LPAR、フレーム、および WPAR

## Cluster Infrastructure SPI

CI SPI は、HA クラスタ (またはフェイルオーバー クラスタ) インフラストラクチャの可用性を監視します。クラスタ要素の可用性と状態、およびそれらの要素上で実行されているプロセスとサービスを分析できます。CI SPI は、次のクラスタを監視します。

- AIX 向け High Availability Cluster Multi-Processing (HACMP/PowerHA)
- HP-UX および Linux 向け MC Service Guard Cluster (MCSG)
- RHEL 向け Red Hat Advanced Server (RHAS) Cluster
- Solaris 向け Solaris Cluster
- UNIX および Windows 向け Veritas Cluster Server (VCS)
- Windows 向け Microsoft Cluster Server (MSCS)

## Infrastructure SPIs 用のレポート パッケージ

管理ノードから収集されたメトリック データに基づいてレポートを生成および表示するには、**HP Reporter** を **HPOM** と統合する必要があります。**Infrastructure SPIs** 固有のレポートを表示するには、レポート パッケージを **Infrastructure SPIs** メディアから管理サーバーにインストールする必要があります。レポートを使用すると、インフラストラクチャのパフォーマンスの傾向を分析できます。これにより、IT システム内の潜在的なボトルネックを特定し、将来的なアップグレードの正確な予測を行い、正確な情報を収集してサービス レベルを測定することができます。



レポート パックは 32 ビット版の **HPOM for Windows** のみで提供されています。

## Infrastructure SPIs 用のグラフ パッケージ

管理ノードから収集されたデータからグラフを生成および表示するには、**HP Performance Manager** を **HPOM** と統合する必要があります。**Infrastructure SPIs** 固有のグラフを表示するには、グラフ パッケージを **Infrastructure SPIs** メディアから管理サーバーにインストールする必要があります。グラフでは、インフラストラクチャのパフォーマンスとリソースの使用率を分析できます。

# 製品ドキュメント

**Infrastructure SPIs** に関する情報は、以下のドキュメントから入手できます。

ドキュメント	場所	目的
インストール ガイド	<CD\DVD-ROM>\Documents	<b>Infrastructure SPIs</b> のインストール、アップグレード、設定、およびさまざまなタスクの実行に関するステップ バイ ステップの手順について説明します。
コンセプト ガイド	<CD\DVD-ROM>\Documents	<b>Infrastructure SPIs</b> のアーキテクチャと使用されている主要なコンセプトに関する情報を提供します。
オンライン ヘルプ	<b>HPOM for Windows</b> コンソールの <b>[ヘルプ]</b> ドロップダウン メニューから利用可能	次のタスクの実行方法について説明します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SPI ポリシーの使用</li><li>• SPI ツールの使用</li><li>• レポートの使用</li><li>• グラフの使用</li></ul> オンライン ヘルプは、個々の SPI に固有のものであります。

ドキュメント	場所	目的
ユーザー ガイド	<CD\DVD-ROM>\Documents	ユーザーに次のタスクの実行方法を手順を追って説明します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SPI ポリシーの使用</li> <li>・ SPI ツールの使用</li> <li>・ レポートの使用</li> <li>・ グラフの使用</li> </ul> ユーザー ガイドは、個々の SPI に固有のものであります。
リリース ノート	<CD\DVD-ROM>	SPI のリリースに関する情報を提供します。

コンセプト ガイド、インストール ガイド、ユーザー ガイド、リリース ノートは、Infrastructure SPIs DVD で入手できます。各ドキュメントには、DVD から直接アクセスできますが、ローカル システムにコピーして参照することもできます。

ただし、次のサイトで最新版を確認してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

## ディスク領域の要件

Infrastructure SPIs では、各種オペレーティング システムで以下のディスク領域の容量が必要になります。

HPOM サーバーの オペレーティング システム	一時フォルダ*	合計ディスク領域
Windows	%tmp% - 15 MB	90 MB
Linux	/tmp - 35 MB	90 MB
HP-UX	/tmp - 17 MB	240 MB
Solaris	/tmp - 35 MB	80 MB

\*一時フォルダ/ドライブ用のディスク領域は、インストール中にのみ必要になります。これらは概算値です。

## サポートしているプラットフォーム

Infrastructure SPIs をインストールする前に、ハードウェアとソフトウェアの対応バージョンをインストールする必要があります。Infrastructure SPIs でサポートしている管理サーバーのオペレーティング システムのバージョン、管理ノードのオペレーティング システムのバージョン、および関連する HP 製品のバージョンに関する情報の最新の更新については、以下の個々のリリース ノートを参照してください。

- HP Operations Manager Smart Plug-in for Systems Infrastructure リリース ノート
- HP Operations Manager Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure リリース ノート
- HP Operations Manager Smart Plug-in for Cluster Infrastructure リリース ノート

### サポートしている管理サーバーのプラットフォーム

オペレーティング システム	サポートしている HP Operations Manager (HPOM) のバージョン *
Microsoft Windows	HPOM for Windows 9.00 HPOM for Windows 8.16
HP-UX	HPOM on HP-UX 9.10 HPOM on HP-UX 9.00
Linux	HPOM on Linux 9.10 HPOM on Linux 9.00
Solaris	HPOM on Solaris 9.10 HPOM on Solaris 9.00

\* HPOM で必要なパッチの詳細は、『Systems Infrastructure SPI リリース ノート』を参照してください。

### サポートしている管理ノードのプラットフォームおよび Agent バージョン

ノード上でサポートされるオペレーティング システム	サポートしている HP Operations Agent のバージョン *
Microsoft Windows	11.00, 8.60
Red Hat Enterprise Linux	11.00, 8.60
SuSe Linux Enterprise Server	11.00, 8.60
HP-UX	11.00, 8.60
Oracle Solaris	11.00, 8.60
IBM AIX	11.00, 8.60

\* 必要な HP Operations Agent パッチの詳細は、『Systems Infrastructure SPI リリース ノート』を参照してください。

## サポートしているクラスタ

オペレーティング システム	サポートしているクラスタ
IBM AIX	High Availability Cluster Multi-Processing (HACMP/ PowerHA)
HP-UX	MC ServiceGuard、Veritas Cluster Server
Red Hat Enterprise Linux	Red HAT Cluster、Veritas Cluster Server、MC ServiceGuard
Oracle Solaris	Solaris Cluster、Veritas Cluster Server
SuSe Linux Enterprise Server	Veritas Cluster Server、ServiceGuard
Microsoft Windows	Microsoft Cluster Server、Veritas Cluster Server

## サポートしている Performance Agent のバージョン

- HP Performance Agent 5.00 とパッチ

HP Performance Agent 5.00 は HP Operations agent 8.60 と一緒にインストールされます。HP Operations Agent 11.00 が既にインストールされている場合は、HP Performance Agent のインストールは不要です。詳細については、『HP Operations Agent 11.00 リリース ノート』を参照してください。

SI SPI と CI SPI の場合、HP Performance Agent のインストールは任意です。Performance Agent がインストールされていない場合、ポリシーは HP Operations Agent (デフォルトで使用可能) から値を取得します。Performance Agent が存在している場合、ポリシーは Performance Agent メトリックから値を取得します。

管理ノードに既存のバージョンの HP Performance Agent が既にインストールされている場合、バージョン 5.00 にアップグレードしてください。

-  VI SPI の場合、SPI ポリシーで使用されるメトリック収集のために、HP Performance Agent バージョン 5.00 以降が必須となります。

HP Performance Agent のインストールの詳細は、『HP Performance Agent インストール、設定ガイド』を参照してください。

## サポートしている HP Performance Manager のバージョン

- HPOM for HP-UX、Windows、Solaris 管理サーバーにグラフ パッケージをインストールする場合は、HP Performance Manager バージョン 8.20 (ソフトウェア パッチを含む) 以降。
- HPOM for Linux 管理サーバーにグラフ パッケージをインストールする場合は、HP Performance Manager バージョン 8.21 以降。

必要なパッチの詳細は、『Systems Infrastructure SPI リリース ノート』を参照してください。

## サポートしている HP Reporter のバージョン

- HP Reporter バージョン 3.80。

HP Reporter をインストールできるのは、32 ビット版の HPOM for Windows 管理サーバーのみです。64 ビット版の Windows または UNIX 管理サーバーでレポートを表示するには、HP Reporter を別のシステムにインストールする必要があります。詳細については、「HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」(25 ページ) を参照してください。

## ソフトウェアのライセンス

SI SPI または CI SPI には、個別のライセンスは不要です。これらの SPI は、HP Software Operations Instance Advanced LTU (使用権) の購入に含まれています。SI SPI の LTU と CI SPI の LTU は、HP Software Operations Instance Advanced LTU を 1 つ購入するたびに含まれています。

VI SPI のライセンス要件は、VI SPI を使用して HPOM サーバーによって管理される仮想化された環境内の仮想インスタンスの数に従って定義されます。

- **Microsoft Hyper-V:** Hyper-V の場合、ライセンスは VI SPI が配布される Hyper-V ホストの数に依存します。VI SPI によって監視される Hyper-V ホスト システムには、それぞれ個別の VI SPI LTU が必要になります。
- **VMware:** VI SPI による監視対象として vMA に追加された ESX および ESXi ホストには、それぞれ個別の VI SPI LTU が必要になります。VI SPI による監視対象として vMA に追加された vCenter には、それぞれ個別の VI SPI LTU が必要になります。
- **HPVM:** HPVM サーバーの場合、ライセンスは VI SPI を配布する HPVM サーバーの数によって決まります。VI SPI で監視する HPVM サーバーには、それぞれ個別の VI SPI LTU が必要になります。
- **AIX LPAR:** LPAR の場合、ライセンスは VI SPI を配布する LPAR の数によって決まります。VI SPI インストールごとにそれぞれ個別の VI SPI LTU が必要になります。
- **Oracle Solaris ゾーン:** グローバル ゾーンの場合、ライセンスは VI SPI を配布するグローバル ゾーンの数によって決まります。VI SPI で監視するグローバルゾーンには、それぞれ個別の VI SPI LTU が必要になります。

ゲスト仮想マシンには、以下の 2 つのライセンス オプションがあります。

- 各ゲスト仮想マシンに HP Operations Instance Advanced LTU を取得でき、これでゲスト仮想マシン用の高解像度監視機能が強化されます。
- HP Operations Manager での障害の生成が可能な Target Connector のライセンスを、オペレーティング システムごとに 1 つ購入する必要があります。

VI SPI には、インストール後 60 日間当該製品を使用できる、試用ライセンスが付いています。

ライセンスの取得方法、永久ライセンス キー パスワードの適用方法、または HPOM でのライセンス レポートの表示方法の詳細は、『HP Operations Manager for Windows インストール ガイド』または『HP Operations Manager for UNIX インストール ガイド』を参照してください。

## 言語オプション

HPOM for Windows の場合、Infrastructure SPI バージョン 2.00 ソフトウェアは英語、日本語、簡体中国語の各言語で利用できます。ローカライゼーションでは、ユーザー インタフェース要素、Web ページ、およびログ ファイルが特定の言語に翻訳されます。HPOM for Windows では、1 つのシステムに複数のインタフェース言語をインストールできる Multiple User Interface (MUI) がサポートされています。ベース ロケールを英語にして Infrastructure SPIs をインストールする場合、インストーラは、HPOM for Windows のインストール時に選択された言語と同じ言語でポリシーをアップロードします。ロケールが日本語または簡体中国語の場合、インストーラはベース ロケール言語を選択します。

HPOM for UNIX 9.10 の場合、Infrastructure SPI バージョン 2.00 ソフトウェアは英語、日本語、簡体中国語の各言語で利用できます。Infrastructure SPIs を英語以外のシステム ロケールでインストールし、ユーザー インタフェース要素、Web ページ、ログ ファイル、オンライン ヘルプ、およびユーザー ドキュメントを英語で利用できます。

# 第2章 Infrastructure SPIs のインストールまたはアップグレード

## Infrastructure SPI 2.00 のインストール

Infrastructure SPIs は、HPOM 管理サーバーにインストールする必要があります。Windows システムの管理者、または HP-UX、Linux、Solaris の各システムのルート ユーザーとしてログオンします。

### HPOM for Windows 管理サーバーへのインストール

インストールを開始する前に、このガイドの残りの部分をご覧になって、決定すべき事項を立案し、必要な情報を収集してください。以下のいずれかの手順を使用すると、Infrastructure SPIs を Windows 管理サーバーにインストールできます。

#### 有人インストール

SPI インストールのプロセス全体を、インストール ウィザードに従って実行できます。以下の手順を実行します。

- 1 開いているすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 CD/DVD-ROM からインストールする場合、Infrastructure SPIs CD/DVD メディアを管理サーバー/コンソール システムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入し、エクスプローラ ウィンドウでメディアの内容を開きます。

または

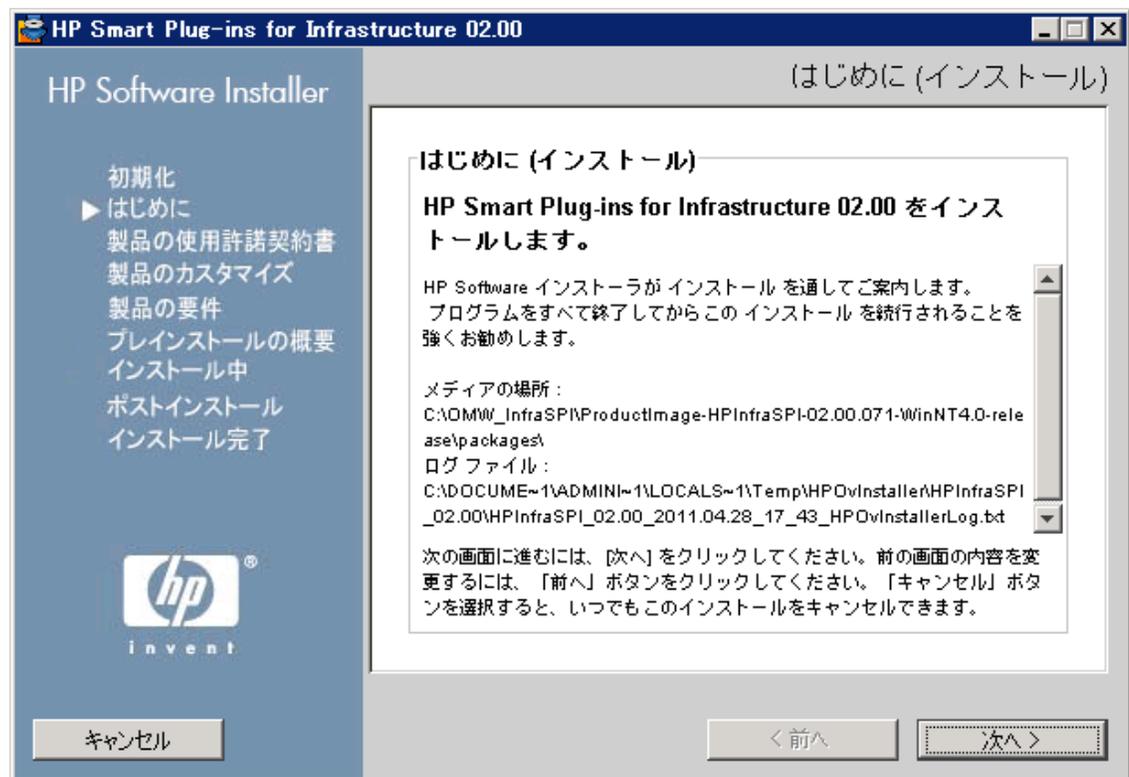
Infrastructure SPIs メディア イメージ ファイル (.iso) をダウンロードし、イメージを物理メディアに書き込むか、コントロール パネルから Microsoft Virtual CD-ROM などのソフトウェアを使用してイメージ ファイルを仮想 CD としてマウントします。

- 3 メディアが使用可能になったら、OMWindows ディレクトリに移動し、HPInfraSPI\_setup.exe をダブルクリックしてインストーラを起動します。

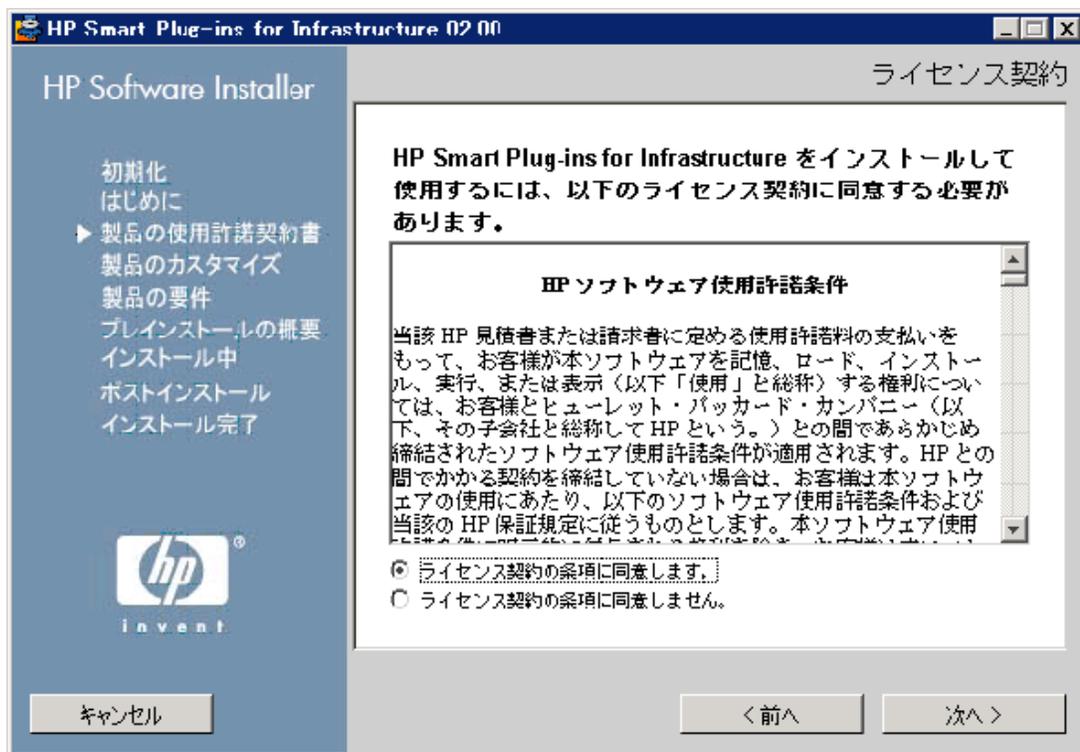
インストール ウィザードが表示されます。



- 4 言語を選択し、**[OK]**をクリックします。アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、**[続行]**をクリックします。インストール ウィザードの [はじめに (インストール)] ページが開きます。

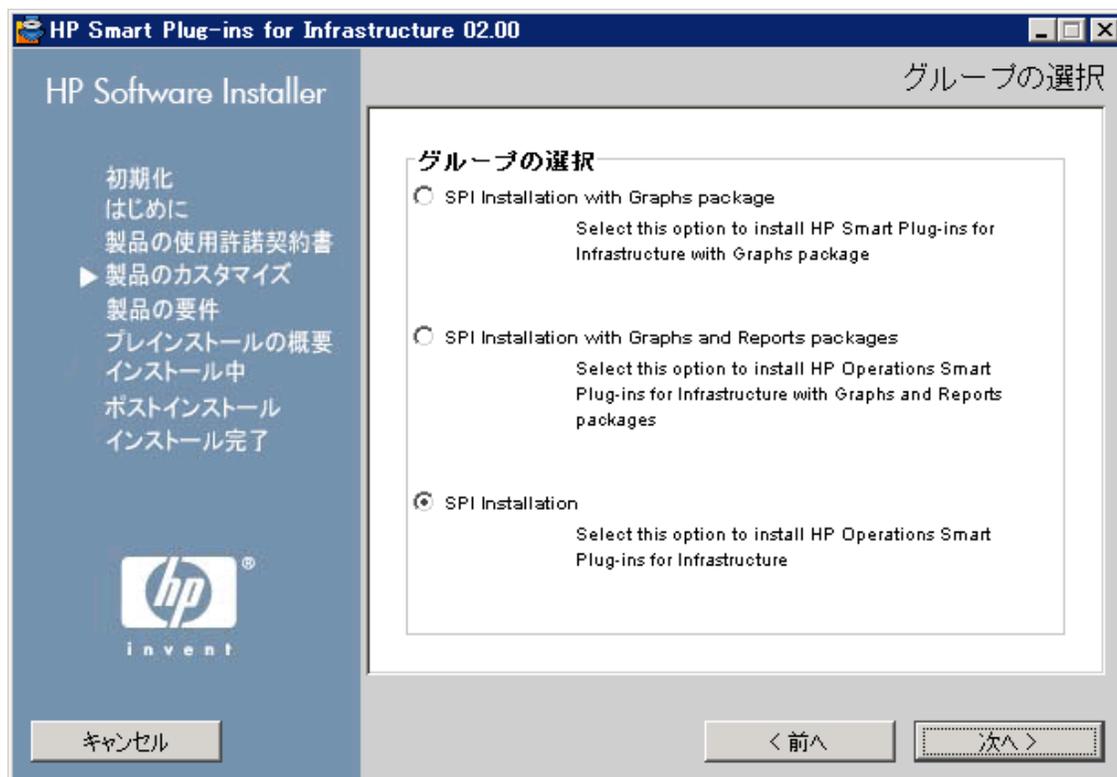


- 5 インストール ウィザードの [はじめに (インストール)] ページで、**[次へ]**をクリックします。  
[ライセンス契約] ページが表示されます。



- 6 使用許諾契約書の条項を読み、[ライセンス契約の条項に同意します] オプションを選択して、[次へ] をクリックします。

[グループの選択] ページが開き、インストール オプションのリストが表示されます。



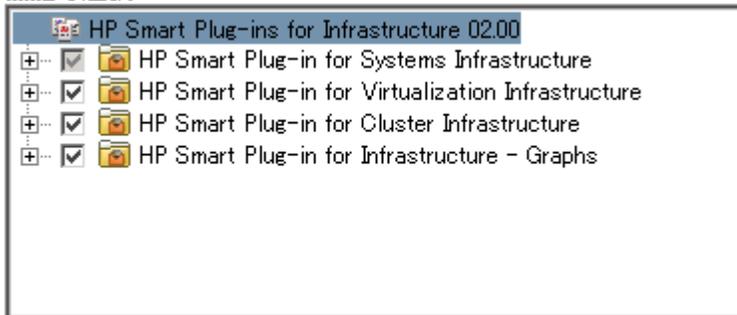
▶ HP Reporter は 64 ビット マシンでのインストールをサポートしていないため、HPOM for Windows 9.00 では **[SPI Installation with Graphs and Reports packages]** オプションは選択できません。

7 以下のいずれかのオプションを選択します。

— グラフ パッケージ付き SPI のインストール

Infrastructure SPIs をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージをインストールするには、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

**機能の選択**



HP Smart Plug-in for Systems Infrastructure のインストールは必須であるため、あらかじめ選択されています。残りのオプションからインストールする機能を選択します。

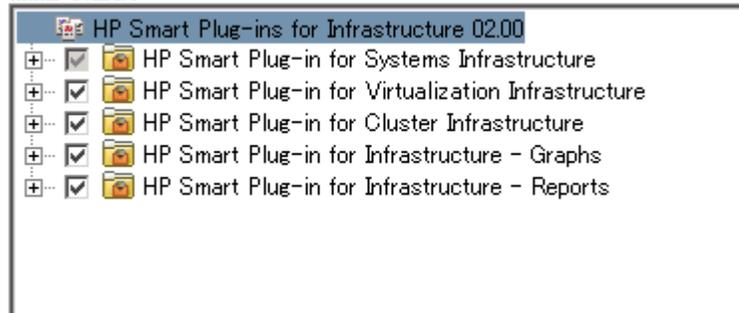
— グラフおよびレポート パッケージ付き SPI のインストール

このオプションは、32 ビット マシンの HPOM for Windows のみで使用できます。

Infrastructure SPIs をグラフ パッケージおよびレポート パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフおよびレポート パッケージをインストールするには、HP Performance Manager と HP Reporter が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

HP Reporter が HPOM for Windows に接続している別のシステムにインストールされている場合は、「HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」(25ページ) の手順に従ってください。

**機能の選択**

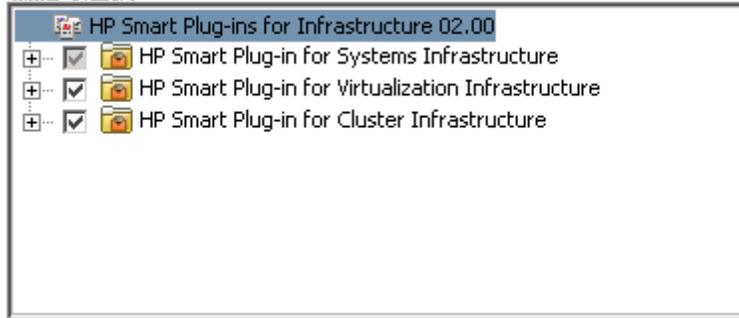


HP Smart Plug-in for Systems Infrastructure のインストールは必須であるため、デフォルトで選択されています。残りのオプションからインストールする機能を選択します。

— SPI のインストール

Infrastructure SPIs をインストールするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、3 つの Infrastructure SPIs のすべてのインストールが自動的に含まれます。

## 機能の選択



- 8 [次へ] をクリックします。  
インストーラがインストール チェックを開始します。
- 9 画面の指示に従い、[次へ] と [インストール] の各ボタンを使用してインストールプロセスを続行します。  
インストールを完了すると、インストール ウィザードによって [インストールの完了] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 10 [完了] をクリックして、インストールを完了します。

## 無人インストール

無人インストールでは、**HP Software Installer** がユーザーの操作を介さずにインストールを実行します。以下の手順を実行します。

- 1 Windows コマンド プロンプトを開き、次のように **Infrastructure SPIs** の `HPInfraSPI_setup.exe` ファイルがあるドライブの名前を入力します。

<CD/DVD-ROM または temp>:

ドライブには、**Infrastructure SPIs** パッケージをダウンロードしたローカル システム、または **Infrastructure SPIs** ファイルを格納している **CD/DVD-ROM** ドライブを指定できます。

- 2 現在のディレクトリの場所を変更するには、以下のコマンドを実行します。

**cd OMWindows**

- 3 要件に応じて、コマンド プロンプトで以下のいずれかのコマンドを入力します。

- グラフ パッケージ付きの **SPI** のインストールは、次のように入力します。

**HPInfraSPI\_setup.exe -DGROUP=WithGraphs -i silent**

**Infrastructure SPIs** をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージをインストールするには、**HP Performance Manager** が既に **HPOM** サーバーにインストールされている必要があります。

- グラフおよびレポート パッケージ付きの **SPI** のインストールは、次のように入力します。

**HPInfraSPI\_setup.exe -DGROUP=WithGraphsAndReports -i silent**

グラフおよびレポート パッケージをインストールするには、**HP Performance Manager** と **HP Reporter** が既に **HPOM** サーバーにインストールされている必要があります。

**HP Reporter** が **HPOM** に接続している別のシステムにインストールされている場合は、「**HP Reporter** が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール」(25 ページ) の手順に従ってください。

- SPI のインストールは、次のように入力します。

```
HPInfraSPI_setup.exe -i silent
```

インストール プロセスはバックグラウンドで行われます。

[Windows タスク マネージャ] → [プロセス] の順に開き、HPInfraSPI\_setup.exe がリストされていることをチェックできます。

インストールが完了したかどうかを確認するには、以下のログ ファイルをチェックします。

```
%OvInstallDir%\install\SPIInstallLogs
```

デフォルトでは、%OvInstallDir% は C:\Program Files\HP\HP BTO Software です。

## HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール

以下のいずれかの手順で、Infrastructure SPIs を HP-UX、Linux、または Solaris の各管理サーバーにインストールできます。

### 有人インストール

有人インストールでは、グラフィカル インタフェースとコマンド行インタフェースを使用して、Infrastructure SPIs をインストールする必要があります。

#### グラフィカル インタフェースによる Infrastructure SPIs のインストール

GUI を使用して Infrastructure SPIs をインストールするには、GUI の表示に必要な X Window System クライアントを使用する必要があります。たとえば、Reflection X を使用できます。

以下の手順を実行します。

- 1 ルート ユーザーとしてログオンします。
- 2 CD/DVD-ROM からインストールする場合、Infrastructure SPIs CD/DVD メディアを CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。必要に応じて、CD/DVD-ROM をマウントします。

または

Infrastructure SPIs メディア イメージ ファイル (.iso) をダウンロードし、イメージを物理メディアに書き込むか、ISO イメージを temp ディレクトリにマウントします。

- 3 ターミナル ウィンドウで、次のように入力して、DISPLAY 環境変数が使用しているワークステーションに正しく設定されていることを確認します。

```
echo $DISPLAY
```

コンソールの GUI を正しく表示するには、次のように入力します。

```
export DISPLAY=<Infrastructure SPIs のインストール元のローカル システムの IP アドレスまたはホスト名>:0.0
```

- 4 Infrastructure SPIs をインストールしている管理サーバーのオペレーティング システムに応じて、以下のコマンドを実行して現在のディレクトリの場所を変更します。

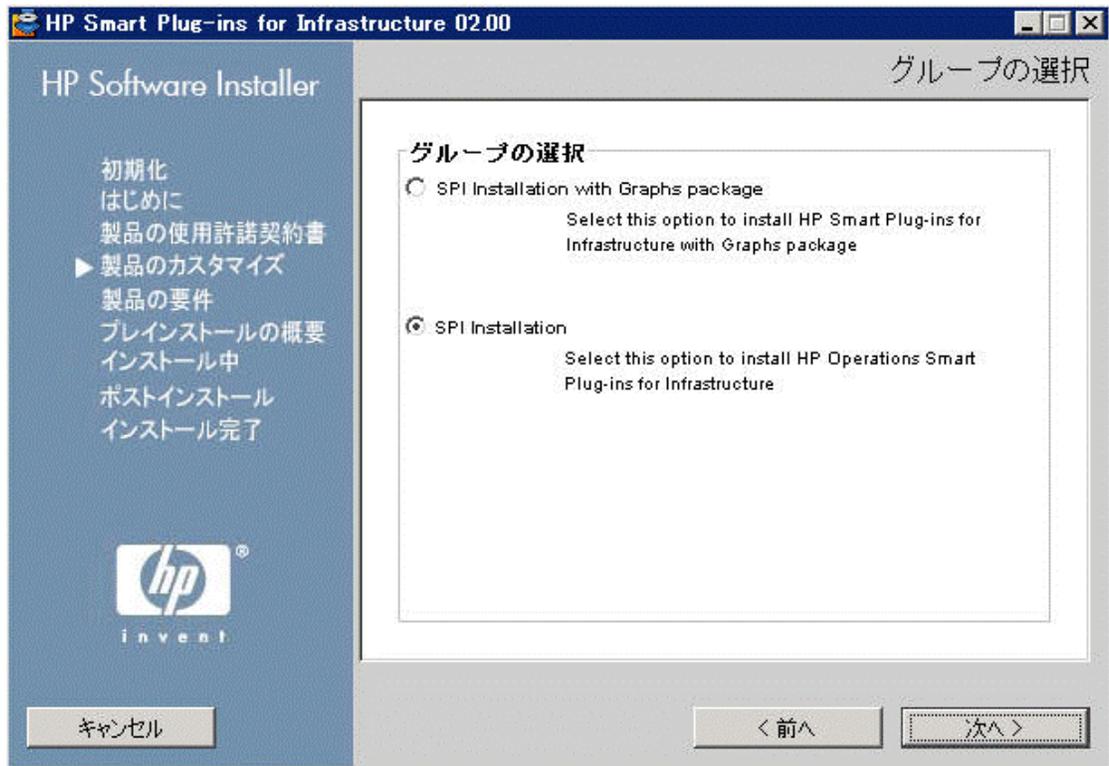
```
cd <OMSolaris/ OMLinux/ OMUnix>
```

- 5 必要に応じて、システム上で X Window System クライアント (X11 クライアント) を起動します。
- 6 以下のコマンドを実行します。

```
./HPInfraSPI_setup.bin
```

インストール ウィザードが表示されます。

- 7 アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、**[続行]** をクリックします。
- 8 インストール ウィザードの [はじめに (インストール)] ページで、**[次へ]** をクリックします。[ライセンス契約] ページが表示されます。
- 9 使用許諾契約書の条項を読み、[ライセンス契約の条項に同意します] オプションを選択して、**[次へ]** をクリックします。  
[グループの選択] ページが開き、インストール オプションのリストが表示されます。



- 10 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **グラフ パッケージ付き SPI のインストール**

Infrastructure SPIs をグラフ パッケージと共にインストールするには、このオプションを選択します。グラフ パッケージをインストールするには、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

HP Smart Plug-in for Systems Infrastructure のインストールは必須であるため、デフォルトで選択されています。[機能の選択] ページで使用可能な残りのオプションから、インストールする機能を選択します。

- **SPI のインストール**

Infrastructure SPIs をインストールするには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、3 つの Infrastructure SPIs のすべてのインストールが自動的に含まれます。



**Infrastructure SPIs レポート パッケージのインストール:** HPOM for UNIX の場合、HP Reporter は別のシステム (HPOM に接続されている) にインストールされるため、Infrastructure SPIs レポート パッケージは別のインストーラになります。このパッケージをインストールし、インフラストラクチャのレポートを表示するには、「[HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール](#)」(25 ページ) の手順に従ってください。

- 11 **[次へ]** をクリックします。インストーラがインストール チェックを開始します。

- 12 画面の指示に従い、[次へ]と[インストール]の各ボタンを使用してインストールプロセスを続行します。

インストールを完了すると、インストール ウィザードによって [インストールの完了] ダイアログ ボックスが表示されます。

[完了] をクリックして、インストールを完了します。

### コマンド行インタフェースによる Infrastructure SPIs のインストール

以下の手順を実行します。

- 1 ルート ユーザーとしてログオンします。
- 2 Infrastructure SPIs CD/DVD-ROM メディアを CD/DVD ドライブに挿入します。必要に応じて、CD/DVD-ROM をマウントします。
- 3 Infrastructure SPIs をインストールしている管理サーバーのオペレーティング システムに応じて、以下のコマンドを実行して現在のディレクトリの場所を変更します。

```
cd <OMSolaris/ OMLinux/ OMUnix>
```

- 4 以下のコマンドを実行します。

```
./HPInfraSPI_setup.bin -i console
```
- 5 [ライセンス契約の条項に同意します] というプロンプトが表示されたら、「y」と入力して条項に同意し、インストールを続行します。
- 7 [Enter] を押して続行します。

インストーラによってすべてのインストール要件がチェックされます。

[Enter] を押して続行します。インストールできるコンポーネントのリストが表示されます。

[Enter] を押して続行します。

インストールが完了すると、インストールが正常に完了したことを示すメッセージを受信します。

### 無人インストール

無人モードで実行されるインストールでは、3 つの Infrastructures SPIs すべてとグラフ パッケージ (オプション) が管理サーバーにインストールされます。

以下の手順を実行します。

- 1 ルート ユーザーとしてログオンします。
- 2 Infrastructure SPIs CD/DVD-ROM メディアを CD/DVD ドライブに挿入します。必要に応じて、CD/DVD-ROM をマウントします。
- 3 Infrastructure SPIs をインストールしている管理サーバーのオペレーティング システムに応じて、以下のコマンドを実行して現在のディレクトリの場所を変更します。

```
cd <OMSolaris/ OMLinux/ OMUnix>
```

- 4 要件に応じて、コマンド プロンプトで以下のいずれかのコマンドを入力します。

— グラフ パッケージ付きの SPI のインストールは、次のように入力します。

```
HPInfraSPI_setup.bin -DGROUP=WithGraphs -i silent
```

グラフ パッケージをインストールするには、HP Performance Manager が既に HPOM サーバーにインストールされている必要があります。

- SPI のインストールは、次のように入力します。

```
HPInfraSPI_setup.bin -i silent
```



**Infrastructure SPIs レポート パッケージのインストール:** HPOM for UNIX の場合、HP Reporter は (HPOM に接続されている) 別のシステムにインストールされるため、Infrastructure SPIs レポート パッケージのインストーラは別になります。このパッケージをインストールし、インフラストラクチャのレポートを表示するには、「**HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール**」(25 ページ) の手順に従ってください。

インストール プロセスはバックグラウンドで行われます。

インストーラを実行すると、システムの一時的ディレクトリに `ovinstallparams_YYYY.MM.DD_hh_mm.ini` ファイルが作成されます。HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システムのシステム一時的ディレクトリは `/tmp` です。

このファイルがいったん生成されると、サイレント インストール用の入力設定として使用できます。サーバーやクライアントなどのグループを定義して、サーバー側アプリケーションやクライアント側アプリケーションに専用の機能を格納することもできます。グループは互いに排他的で、一度に 1 つのグループのみインストールできます。インストーラによってグループ選択パネルが表示されるため、特定のグループに合った機能を選択できます。

## Infrastructure SPIs のクラスタ環境へのインストール



HPOM コンソールは、Infrastructure SPIs が HPOM クラスタのすべてのノード (クラスタを構成するノード) にインストールされるまで、正しく機能しません。

HPOM のクラスタ化されたインストールでは、現在インストールが実行されている物理クラスタ ノードとは無関係に、すべてのノードでインストールの一貫性が維持される必要があります。一貫したインストールとは、すべてのノードに同じ SPI と HPOM パッチがインストールされることを意味します。クラスタ化されたインストールでは、すべてのクラスタ ノードで HPOM の一貫した設定が必要になります。

Infrastructure SPIs をクラスタ環境にインストールする前に、最初にインストールするノードがアクティブなクラスタ ノードであることを確認してください。そうでない場合、最初のノードへのインストールは失敗します。次に、同じパッケージを各クラスタ ノードにインストールします。あるいは、最初のノードの選択設定ファイル (インストーラによって作成された `ini` ファイル) を保存し、そのファイルを使用して、他のクラスタ ノードに同じパッケージのセットをインストールします。

## HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール

HP Reporter は、管理サーバーまたはスタンドアロンの Windows サーバー (HPOM 管理サーバーに接続されている) にインストールできます。

HP Reporter が HPOM 管理サーバー以外のシステム (スタンドアロン) にインストールされている場合に Infrastructure SPIs レポート パッケージをインストールするには、スタンドアロンの HP Reporter システム上で Infrastructure SPI Reporter `msi` ファイルを実行します。`.msi` ファイルは、Infrastructure SPIs メディアの `[Reports]` フォルダにあります。

Infrastructure SPIs レポート パッケージを正常にインストールしたら、スタンドアロン システムからインフラストラクチャのレポートにアクセスできるようになります。



HP Reporter は、Windows システム上でのみインストールできるため、HPOM for UNIX の場合、常にスタンドアロンの Windows サーバー (HPOM 管理サーバーに接続されている) にインストールされます。

## HP Performance Manager が別のシステムにインストールされている場合のグラフパッケージのインストール

HP Performance Manager と HPOM が同じシステムにインストールされている場合、Infrastructure SPIs グラフ パッケージを別々にインストールする必要はありません。インストーラの [機能の選択] ページで **[SPI Installation with Graphs package]** オプションを選択すると、Infrastructure SPIs と共にインストールされます。

HP Performance Manager を HPOM がインストールされていないシステム (スタンドアロン システム) にインストールする場合、HP Performance Manager と HPOM の各システムを統合する必要があります。HP Performance Manager と HPOM for UNIX オペレーティング システムを統合する方法の詳細は、「[HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合](#)」(49ページ) を参照してください。

## インストールの確認

### HPOM for Windows 管理サーバー

インストールが正常に完了していることを確認するには、以下をチェックします。

- `<%OvInstallDir%>\Install\InfraSPI` フォルダがインストール ディレクトリに追加されています。
- 関連するログ ファイルは、`<%temp%>\HPOvInstaller\HPInfraSPI_<バージョン>` ディレクトリで利用できます。
- ログ ファイルのファイル名の形式は、`HPInfraSPI_<バージョン>_yyyy.MM.dd_xx_yy_HPOvInstallerLog.txt` です。  
このインスタンスでは、yyyy は年、MM は月、dd は日を示します。ファイル名の xx および yy は、前回インストールが実行されたタイム スタンプを示します。
- インストールされた SPI のインストール ログは以下で利用できます。  
`<%OvInstallDir%>\install\SPIInstallLogs`

### HPOM for UNIX 管理サーバー

インストールが正常に完了していることを確認するには、以下をチェックします。

- HPOM for Linux のログ ファイルは、`/tmp/HPOvInstaller/HPInfraSPI_<バージョン>` ディレクトリにあります。
- HPOM for HP-UX および Solaris のログ ファイルは、`/var/tmp/HPOvInstaller/HPInfraSPI_<バージョン>` ディレクトリにあります。

- ログ ファイルのファイル名の形式は、  
HPInfraSPI\_<バージョン>\_yyyy.MM.dd\_xx\_yy\_HPOvInstallerLog.txt です。  
このインスタンスでは、yyyy は年、MM は月、dd は日を示します。ファイル名の xx および yy は、前回インストールが実行されたタイム スタンプを示します。
- アプリケーション ディレクトリは /opt/OV/ で、データ ディレクトリは /var/opt/OV/ です。

## HPOM for Windows のノードでの自動配布の無効化

HPOM for Windows に関連付けられたノード上で自動配布を無効にするには、以下の手順を実行します。

- 1 ノードを右クリックして、ポップアップ メニューから **[プロパティ]** を選択します。ノードのプロパティ ウィンドウが開きます。
- 2 **[ネットワーク]** タブを選択します。
- 3 **[自動配布を有効化]** チェック ボックスをオフにします。

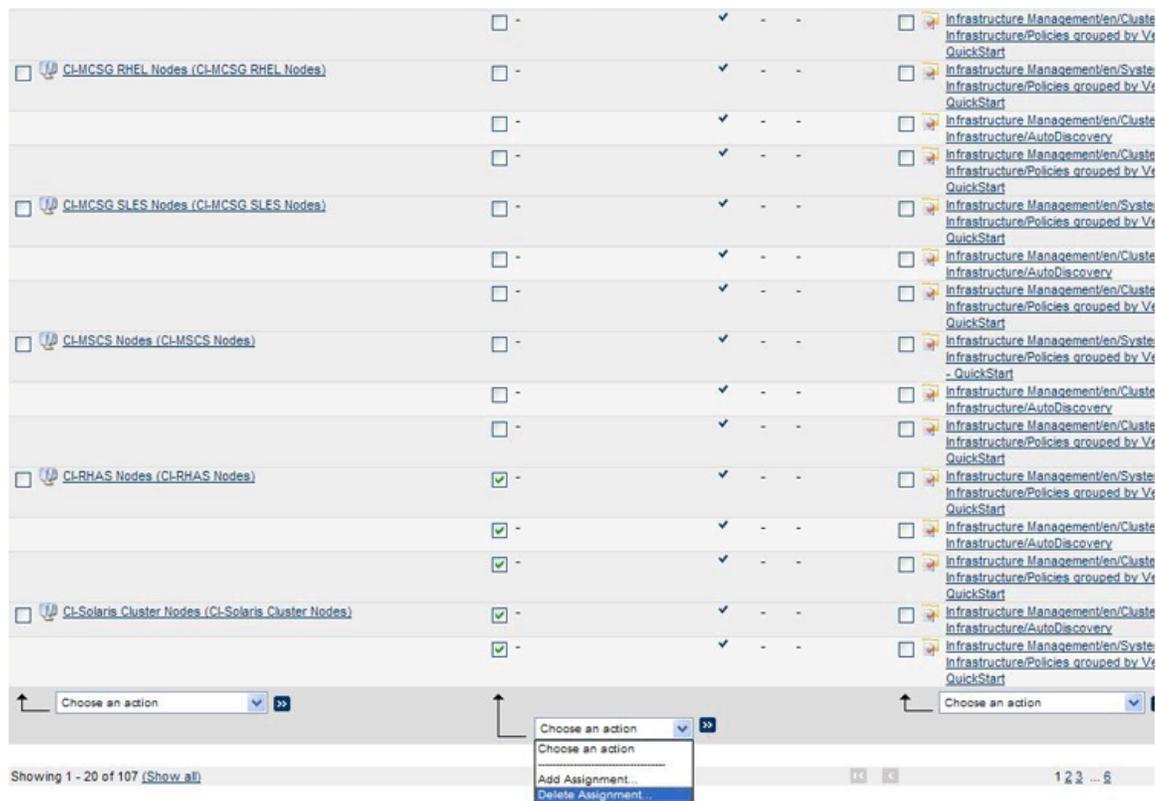
## HPOM for UNIX のノードでの自動配布の無効化

HPOM for UNIX のノード グループに QuickStart ポリシーの自動割り当てを無効にするには、以下の手順を実行します。

- 1 管理 GUI の [参照] - [すべてのポリシー割り当て] をクリックします。[すべてのポリシー割り当て] ウィンドウが開きます。

ノード グループとそれらのノード グループに割り当てられたポリシーは、このウィンドウに表示されます。

- 2 [割り当てモード] カラムの下で、目的のノード グループに対するチェック ボックスをオンにして、[アクションを選択] のドロップダウンリストから [割り当てを削除] を選択します。



選択したノード グループから自動割り当てが削除されます。

# Infrastructure SPIs のバージョン 2.00 へのアップグレード

Infrastructure SPIs バージョン 2.00 には、Infrastructure SPIs のバージョン 1.00 またはバージョン 1.60 から直接アップグレードできます。アップグレードすると、Infrastructure SPI 2.00 の新規インストール時と類似した UI が表示されます。

Infrastructure SPIs バージョン 2.00 に含まれている拡張機能と更新の詳細は、(Infrastructure SPIs を構成する) 個々の SPI リリース ノートを参照してください。

VI SPI バージョン 1.00 から Infrastructure SPIs 2.00 に直接アップグレードすることはできません。VI SPI バージョン 1.00 が既にインストールされている場合、まずこれをアンインストールしてから、Infrastructure SPIs バージョン 2.00 をインストールしてください。

Infrastructure SPIs 2.00 では、次のアップグレードパスがサポートされています。

- HPOM for Windows (8.16 または 9.00)、HPOM for HP-UX (9.00 または 9.10)、HPOM for Linux (9.00 または 9.10)
  - Infrastructure SPI 1.60 → Infrastructure SPI 2.00
  - Infrastructure SPI 1.00 → Infrastructure SPI 2.00
  - Infrastructure SPI 1.00 → Infrastructure SPI 1.60 → Infrastructure SPI 2.00
- HPOM for Solaris 9.00 または 9.10
  - Infrastructure SPI 1.60 → Infrastructure SPI 2.00

## ノードでのツールの配布

### シナリオ 1

旧バージョンの **Infrastructure SPI** ポリシーが配布されていないノードに、**Infrastructure SPI 2.00** ポリシーを配布したい。

SI-SystemDiscovery\_ja\_JP ポリシーを実行し、新しく検出されたノードに Infrastructure SPI ポリシーを配布します。

### シナリオ 2

旧バージョンの **Infrastructure SPI** ポリシーが配布されているノードに、**Infrastructure SPI 2.00** ポリシーを配布したい。

- 1 古いポリシーをすべてノードから削除し、2.00 ポリシーを配布します。
- 2 2.00 インストールメンテーションをノードに「強制」配布して、既存/旧のインストールメンテーションを上書きします。

## Infrastructure SPIs のアップグレード

HPOM 上で Infrastructure SPIs バージョン 2.00 にアップグレードするには、Infrastructure SPIs バージョン 2.00 インストーラを実行します。Infrastructure SPIs のインストーラは、管理サーバー上での既存のバージョンの Infrastructure SPIs の存在を識別し、最新のバージョンにアップグレードします。

HPOM for Windows の場合、「[HPOM for Windows 管理サーバーへのインストール](#)」(17 ページ) を参照し、GUI を使用している場合は、画面の指示に従ってください。

HPOM for UNIX の場合は、「[HPOM for UNIX 管理サーバーへのインストール](#)」(22 ページ) を参照してください。

## アップグレード結果

アップグレード アクションによって、管理サーバー上のポリシー、ツール、およびサービス モデルの **Infrastructure SPIs** 設定が自動的に更新されます。

現在のリリースの **Infrastructure SPIs** には、以下の変更または追加が含まれています。

- 新しいポリシー グループ

現在のリリースには、監視対象要素およびサポート対象ベンダーに従って、新しいポリシー グループが組み込まれています。バージョン全体のポリシー グループは削除されています。

- ポリシーのバージョン番号の変更

**Infrastructure SPIs** ポリシーは、バージョン番号 **200.0000** に更新されます。

- 各ベンダーの新しいポリシー
- 新しいノード グループ

**Infrastructure SPIs** バージョン **2.00** では、新しいノード グループが作成されます。アップグレード プロセスによって、**Infrastructure SPI** の旧バージョンで作成されたノード グループは削除されます。

- 新しいツール、グラフ、レポート

アップグレードが完了すると、旧バージョンのツール、グラフ、レポートは **2.00** バージョンのものと置換されます。

# Operating System SPIs から Infrastructure SPIs への移行

Infrastructure SPIs をインストールすると、結果として Smart Plug-in for Microsoft Windows オペレーティングシステムと Smart Plug-in for UNIX オペレーティングシステム (Operating System SPIs) にいくつかの変更が行われます。Infrastructure SPI をインストールすると、Operating System SPIs のポリシーの自動配布が無効になります。

Operating System SPIs から Infrastructure SPIs に移行するには、以下のタスクを実行します。

## タスク 1: HPOM for Windows 管理ノードからの Operating System SPIs のポリシーの削除

Infrastructure SPIs のソフトウェアスイートには、HPOM for Windows 上で設定されている Windows (Windows 2000 サーバーを除く)、HP-UX、Linux、AIX、および Solaris のすべての管理ノードから、Operating System SPIs のポリシーを削除するスクリプトが用意されています。

管理サーバー上でスクリプトを実行するには、以下のコマンドを使用します。

```
cd %OvInstallDir%\install\INFRASPI\support\  
cscript Undeploy_OSSPIPolicies.vbs
```

このスクリプトは、管理ノードから Operating System SPIs のポリシーを削除しますが、管理サーバーのデータベース インベントリからそれらのポリシーを削除するわけではありません。

管理ノードがダウンしているか、到達不能な場合、ポリシーの削除は失敗します。詳細については、%OvInstallDir%\install\INFRASPI\log\ にあるログ ファイルを参照してください。



このスクリプトは、HPOM for Windows 上で設定されている管理ノードからポリシーを削除するのに使用できます。HPOM for UNIX オペレーティングシステム上で設定されている管理ノードの場合、ポリシーは手動で削除してください。

## タスク 2: Infrastructure SPIs のポリシーの配布

管理ノードにポリシーを配布/割り当てる前に、Systems Infrastructure SPI 検出ポリシーを実行する必要があります。



## 第3章 Infrastructure SPIs のコンポーネント

Infrastructure SPIs をインストールしたら、監視するノードを管理コンソールに追加する必要があります。

### HPOM for Windows での Infrastructure SPIs のコンポーネント

以下に、HPOM for Windows コンソールでの Infrastructure SPIs のコンポーネントを示します。

#### サービス

ノードを HPOM for Windows ノード グループに追加すると、SI SPI サービス検出ポリシーが自動的に配布されます。

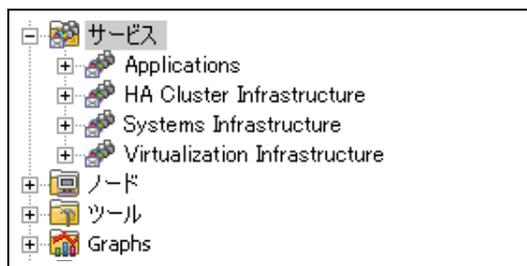
このサービス検出ポリシーは、ノード上のシステム インフラストラクチャとサービスを検出し、この情報を HPOM サービス領域に追加します。

SI SPI サービス マップを表示するには、[サービス] → [Systems Infrastructure] を選択します。SI SPI サービス マップは、検出されたシステムとインスタンスをグラフィカルに表示します。



SI SPI 検出ポリシーと QuickStart ポリシーは新しいノードに自動配布され (自動配布が有効になっている場合)、HPOM for Windows サーバーに追加されます。既存のノードでは、SI SPI 検出ポリシーを手動で配布する必要があります。

インストールされた Infrastructure SPIs のルート 要素は、以下の図に示すように、HPOM コンソールの [サービス] の下に表示されます。



#### Virtual Infrastructure の検出

SI SPI 検出ポリシーによってノードが仮想化ノードとして特定されると、VI SPI 検出が自動配布されます。これらのノードで実行されている仮想マシンがそれぞれの Virtualization Infrastructure ノード グループの下に追加され、ベンダー固有の QuickStart ポリシーがこれらのノードに自動配布されます。

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。VI SPI サービス マップを表示するには、[サービス] → [Virtualization Infrastructure] を選択します。VI SPI サービス マップは、検出された仮想システムをグラフィカルに表示します。

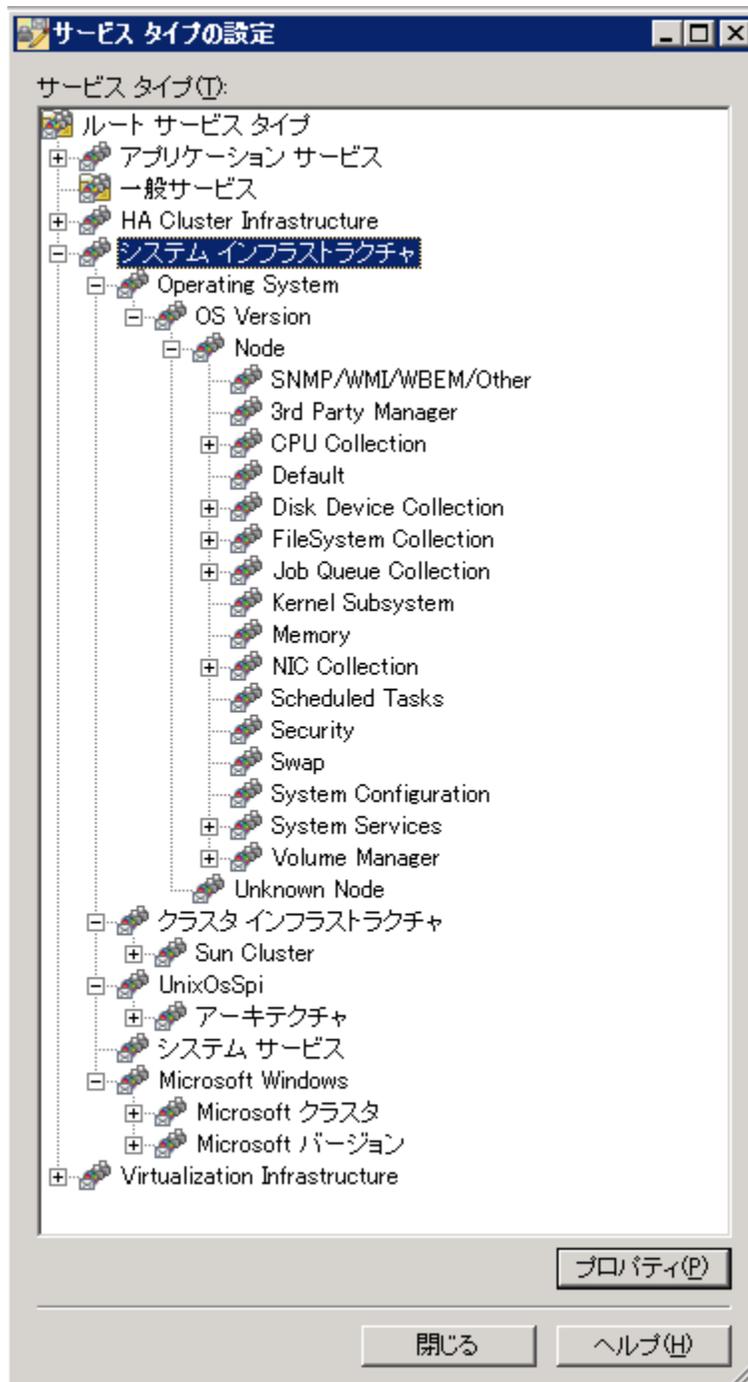
## クラスタ インフラストラクチャの検出

HPOM for Windows では、SI SPI 検出ポリシーがノードをクラスタ ノードとして識別した場合、そのノード上で CI SPI 検出ポリシーが起動されます。CI SPI 検出は、クラスタ、クラスタ ノード、およびリソース グループを検出します。Cluster Infrastructure SPI サービス マップを表示するには、[サービス] → [HA Cluster Infrastructure] を選択します。

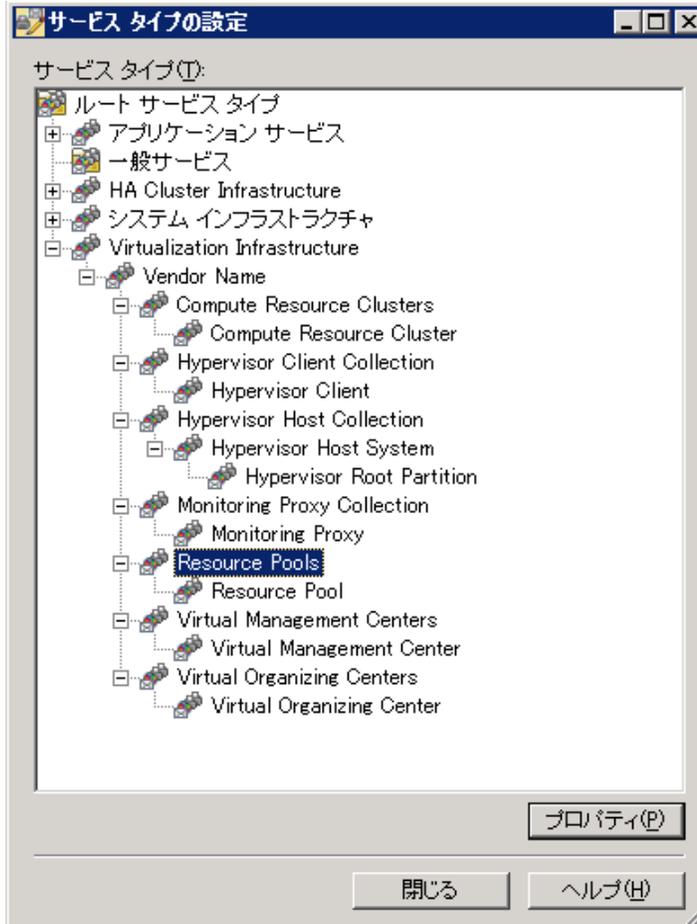
## サービス タイプ モデル

サービス タイプ モデルでは、登録ノードのノードの論理的な割り当て先となるサービス タイプ カテゴリが表示されます。HPOM for Windows では、サービス タイプ モデルを表示できます。

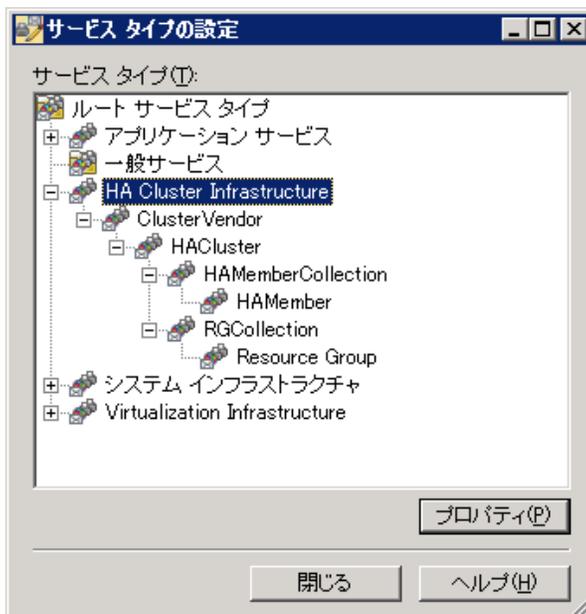
以下の図に、SI SPI 用のサービス タイプ モデルを示します。



以下の図に、VI SPI 用のサービス タイプ モデルを示します。

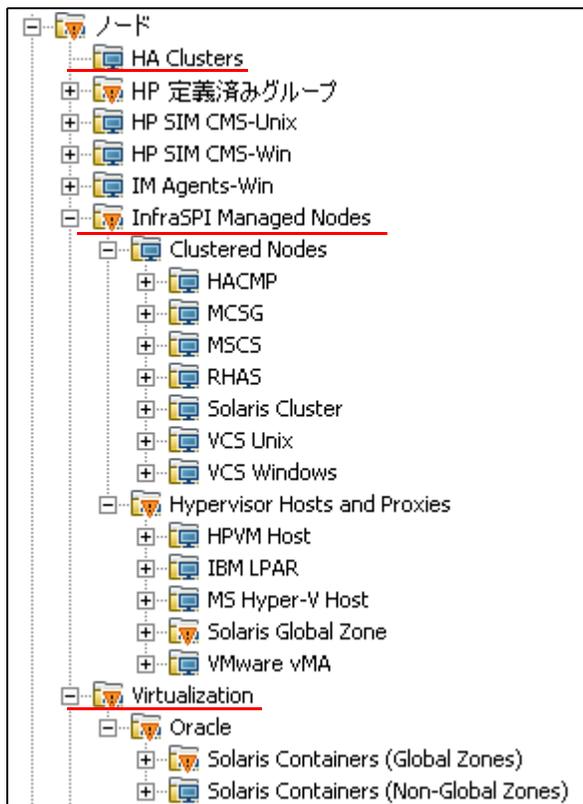


以下の図に、CI SPI 用のサービス タイプ モデルを示します。



## ノード グループ

Systems Infrastructure SPI 2.00 をインストールすると、コンソール ツリーの [ ノード ] フォルダの下に以下のノード グループが追加されます。



▶ 英語以外のロケールでも、ノード グループ名は英語で表示されます。

## ツール

ツールは SI SPI および VI SPI 用に提供されます。Systems Infrastructure SPI ツール グループにアクセスするには、以下の図に示すように、[ ツール ] → [ システム インフラストラクチャ ] の順に選択し、VI SPI ツール グループにアクセスするには、[ ツール ] → [ 仮想化インフラストラクチャ ] の順に選択します。



## ポリシー管理

ポリシーは、[Infrastructure Management] の下で言語に従ってグループ化されます。たとえば、英語のポリシーは [en] の下で、日本語のポリシーは [ja] の下で、簡体中国語のポリシーは [zh] の下でグループ化されます。言語のグループは、インストール時に選択した言語に従って表示されます。



**ConfigFile** ポリシーの **SI-ConfigureDiscovery** および **VI-VMwareEventTypes** には、ローカライズされた名前はありません。英語以外のロケールであっても、ポリシー名は英語版と同じです。

それ以降のグループ化は、インストール時に選択した **SI SPI**、**CI SPI**、および **VI SPI** に基づきます。各 **SPI** の下では、パフォーマンス、可用性、容量、ログ、およびイベントによってポリシーがグループ化されます。

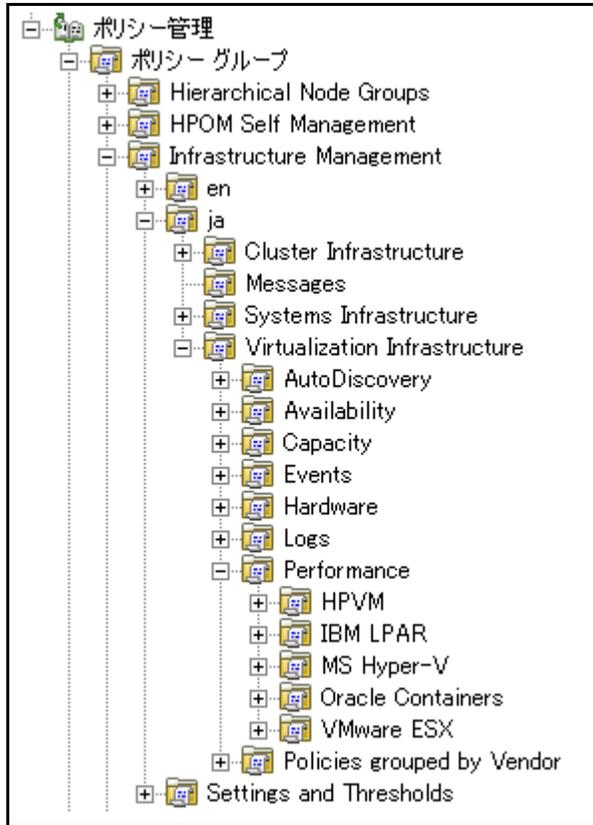
ベンダーに基づいたポリシーグループもあります。このグループの下では、さまざまなオペレーティングシステムやベンダーに基づいてポリシーが再度グループ化されます。ベンダー別にグループ化されたポリシーには、**QuickStart** ポリシーと高度なポリシーがあります。**QuickStart** ポリシーがノードそれぞれのノードグループに追加されると、サポートされている管理ノードに自動的に配布されます。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前で作成し、目的に応じたカスタムポリシーを作成することもできます。**QuickStart** ポリシーの配布の詳細は、「[Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX からの配布](#)」(47 ページ)を参照してください。

**Systems Infrastructure SPI** ポリシーを表示しアクセスするには、[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] の順に選択します。

**VI SPI** ポリシーを表示しアクセスするには、[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] の順に選択します。

**Cluster Infrastructure SPI** ポリシーを表示しアクセスするには、[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Cluster Infrastructure] の順に選択します。

図1 Infrastructure SPIs のポリシー グループ



## レポート

HP Reporter が HPOM for Windows 管理サーバー (32 ビット) にインストールされている場合、HPOM for Windows コンソールからレポート グループを表示できます。



64 ビットの HPOM サーバーの場合、レポートを表示するには **HP Reporter** を別のシステムにインストールする必要があります。詳細については、「**HP Reporter が別のシステムにインストールされている場合のレポート パッケージのインストール**」(25 ページ) を参照してください。

## グラフ

SI SPI と VI SPI には、一連の設定済みのグラフが備わっています。HPOM コンソールからグラフにアクセスするには、**Infrastructure SPI** グラフ パッケージをインストールする前に、**HP Performance Manager** を HPOM 管理サーバーにインストールする必要があります。

SI SPI グラフにアクセスするには、以下の図に示すように、**[Graphs]** → **[インフラストラクチャのパフォーマンス]** の順に選択し、VI SPI グラフにアクセスするには、**[Graphs]** → **[インフラストラクチャのパフォーマンス]** → **[仮想化]** の順に選択します。



または **HP Performance Manager** が HPOM 管理サーバーに接続している別の (スタンドアロン) システムにインストールされている場合、**HP Performance Manager** スタンドアロン システム上でグラフを表示できます。

# HPOM for UNIX での Infrastructure SPIs のコンポーネント

以下に、HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) 管理 UI での Infrastructure SPIs のコンポーネントを示します。

## サービス

SI-service 検出ポリシーは、ノード上のシステム インフラストラクチャとサービスを検出し、この情報を HPOM サービス領域に追加します。サービス マップとオペレータ コンソールの表示には Java GUI を使用します。Java GUI は別のシステムにインストールする必要があります。

### Virtual Infrastructure の検出

システム検出によってノードが仮想化ノードとして特定されると、VI SPI 検出が自動配布されます。これらのノードで実行されている仮想マシンがそれぞれの Virtualization Infrastructure ノード グループの下に追加され、ベンダー固有の QuickStart ポリシーがこれらのノードに自動配布されます。

VI SPI 検出ポリシーは、管理ノード (ホスト マシン) 上でホストされている仮想マシン (ゲスト マシン) を検出し、この情報を HPOM サービス領域に追加します。VI SPI サービス マップを表示するには、**[サービス]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[グラフの表示]** の順に選択します。サービス マップは、検出された仮想システムをグラフィカルに表示します。

### クラスタ インフラストラクチャの検出

クラスタ ノードを HPOM for HP-UX、Linux、または Solaris 登録ノードに追加した場合は、CI SPI サービス検出を手動で配布します。CI SPI 検出は、クラスタ、クラスタ ノード、およびリソース グループを検出します。CI SPI サービス マップを表示するには、**[サービス]** → **[Cluster Infrastructure]** → **[グラフの表示]** の順に選択します。

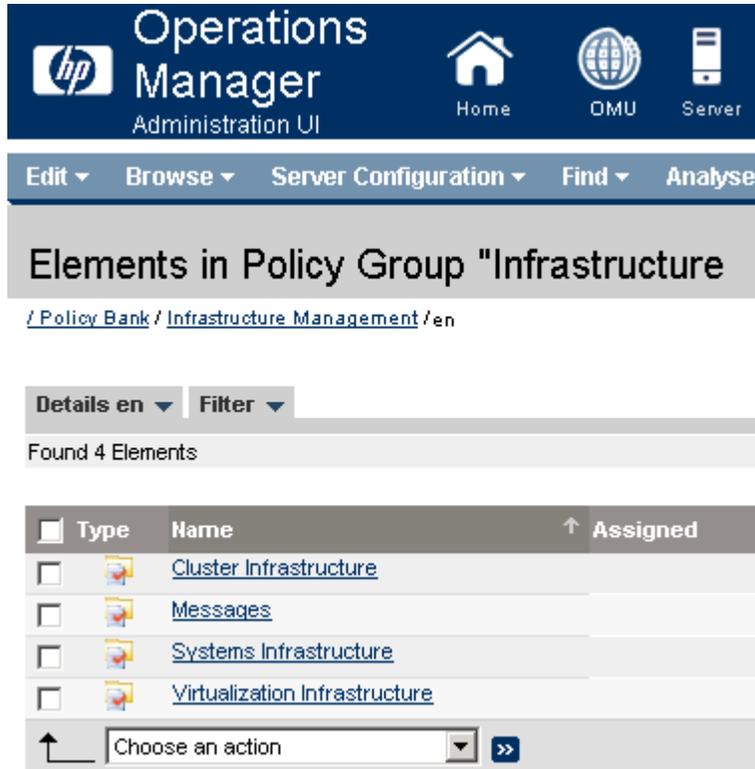
## ポリシー管理

ポリシーは、**[Infrastructure Management]** の下で言語に従ってグループ化されます。たとえば、英語のポリシーは **[en]** の下で、日本語のポリシーは **[ja]** の下で、簡体中国語のポリシーは **[zh]** の下でグループ化されます。言語のグループは、インストール時に選択した言語に従って表示されます。

ベンダーに基づいたポリシー グループもあります。このグループの下では、さまざまなオペレーティング システムやベンダーに基づいてポリシーが再度グループ化されます。ベンダー別にグループ化されたポリシーには、QuickStart ポリシーと高度なポリシーがあります。QuickStart ポリシーが各ノード グループに追加されると、管理ノードに自動的に割り当てられます。このポリシーは、ノードに手動で配布できます。QuickStart ポリシーの配布の詳細は、「Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX からの配布」(47ページ) を参照してください。

また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前で作成し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。

以下の図に、英語ロケールのポリシー グループを示します。



SI SPI ポリシーを表示しアクセスするには、[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] の順に選択します。

VI SPI ポリシーを表示しアクセスするには、[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] の順に選択します。

CI SPI ポリシーを表示しアクセスするには、[Policy Bank] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Cluster Infrastructure] の順に選択します。

## ツール

Infrastructure SPIs には、SI SPI および VI SPI 用のツールが用意されています。SI SPI ツール グループにアクセスするには、以下の図に示すように、[Tool Bank] → [Systems Infrastructure] の順に選択し、VI SPI ツール グループにアクセスするには、[Tool Bank] → [Virtualization Infrastructure] の順に選択します。

The screenshot shows the HP Operations Manager Administration UI. At the top, there is a navigation bar with the HP logo and 'Operations Manager Administration UI'. Below this are icons for Home, OMU, Server, Admin, and Help. A secondary navigation bar contains 'Edit', 'Browse', 'Server Configuration', 'Find', 'Analyse', and 'Deployment'. The main content area is titled 'Tool Bank' and includes a 'Filter' dropdown, a 'Found 20 Elements' status, and an alphabetical index (A-K). Below the index is a table of tools, each with a checkbox, a label, and a name. At the bottom of the table is an action bar with a dropdown menu and a '>>' button.

<input type="checkbox"/>	Type	Label	Name
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Certificate Tools</a>	<a href="#">Certificate Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">OV Composer</a>	<a href="#">Correlation Composer</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Distr NNM Admin Tools</a>	<a href="#">Distr NNM Admin Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">NNM Admin Tools</a>	<a href="#">NNM Admin Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">NNM-ET Views</a>	<a href="#">NNM-ET Views</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">NNMi</a>	<a href="#">NNMi</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">NT Tools</a>	<a href="#">NT Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">OM License Tools</a>	<a href="#">OMU License Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Performance Agent</a>	<a href="#">Performance Agent</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Systems Infrastructure</a>	<a href="#">SISPI</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">SSP Tools</a>	<a href="#">SSP Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">UN*X Tools</a>	<a href="#">UN*X Tools</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Virtualization Infrastructure</a>	<a href="#">Virtualization Infrastructure</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">X-OVw</a>	<a href="#">X-OVw</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Broadcast</a>	<a href="#">Broadcast</a>
<input type="checkbox"/>		<a href="#">HPOM Status</a>	<a href="#">HPOM Status</a>

## レポート

HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システムの場合、**HP Reporter** を管理サーバーに接続されている別の (スタンドアロン) システムにインストールします。レポートは、**HP Reporter** スタンドアロン システムで表示できます。

HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『**HP Reporter** インストールおよび特別構成ガイド』を参照してください。

## グラフ

Infrastructure SPIs には、SI SPI および VI SPI 用のグラフが用意されています。収集されたデータからグラフを生成および表示するには、HP Performance Manager を HPOM と連動して使用する必要があります。

グラフにアクセスするには、アクティブなメッセージを選択して [メッセージのプロパティ] ウィンドウを開き、[アクション] をクリックします。[オペレータ起動アクション] 項で、[起動] をクリックします。または、アクティブなメッセージを右クリックして [アクションの起動/停止] を選択し、[オペレータ起動アクションの起動] をクリックします。

HP Performance Manager が管理サーバーにインストールされている場合、管理サーバー上でグラフを起動して表示できます。HP Performance Manager が HPOM 管理サーバーに接続している別の (スタンドアロン) システムにインストールされている場合は、HP Performance Manager スタンドアロン システム上でグラフを表示できます。

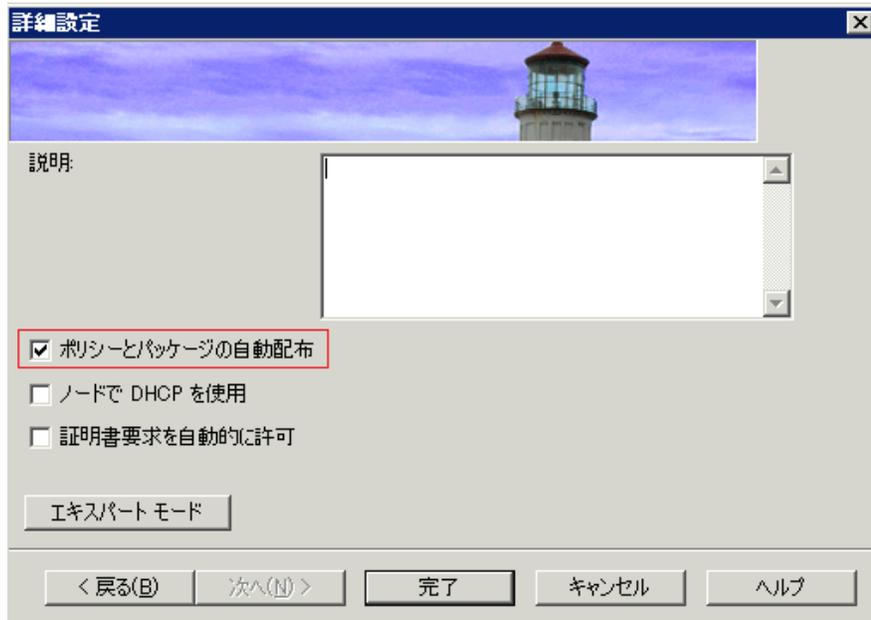
HP Performance Manager と HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システム向けの HPOM を統合する方法の詳細は、「[HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合](#)」(49 ページ) を参照してください。

## 第4章 作業の開始

### HPOM for Windows

#### 管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布

Infrastructure SPIs を HPOM for Windows 管理サーバーにインストールしたら、監視するノードを追加します。ノードの追加時には、以下の図に示すように、**【ポリシーとパッケージの自動配布】** オプションがデフォルトでオンになっています。



このオプションは、管理ノード上の以下のポリシーの自動配布を有効にします。

- SI-SystemDiscovery
- InfraSPI-Messages
- OPC OPCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD
- OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR

既存のノード (Infrastructure SPIs のインストール前に追加された) の場合、または管理ノードの追加中に **【ポリシーとパッケージの自動配布】** チェック ボックスがオフにされた場合は、これらのポリシーを手動で配布します。

以下のポリシーを管理ノードに配布します。

ポリシー（順序は任意）にアクセスおよび配布するには、以下の手順を実行します。

- [ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Messages] の順に選択して、InfraSPI-Messages ポリシーを配布します。
- [ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [AutoDiscovery] の順に選択して、SI-SystemDiscovery ポリシーを配布します。
- [ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds] → [Agent Settings] の順に選択して、以下のポリシーを配布します。
  - AUTO\_ADDITION\_SETTINGS
  - OPC\_OPCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD
  - OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR



ゲスト仮想マシンを自動的に追加するには、AUTO\_ADDITION\_SETTINGS ポリシーの AutoAdd\_Guests パラメータを **True** に設定します。このパラメータはデフォルトでは **False** に設定されています。

## 仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

仮想化されたインフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

SI SPI 検出によってノードが仮想化ノードとして特定されると、VI SPI 検出が自動配布されます。これらのノードで実行されている仮想マシンがそれぞれの **Virtualization Infrastructure** ノード グループの下に追加され、ベンダー固有の **QuickStart** ポリシーがこれらのノードに自動配布されます。

検出された管理ノードは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

- [ノード] → [InfraSPI Managed Nodes] → [Hypervisor Hosts and Proxies]
- [ノード] → [Virtualization] → [<ベンダー名>]

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。VI SPI サービス マップを表示するには、[サービス] → [Virtualization Infrastructure] の順に選択します。

## クラスタ インフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

クラスタ インフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

クラスタ ノードを HPOM for Windows に追加した場合、SI SPI によって、クラスタ ノードとリソース グループが登録ノードに自動的に追加されます。クラスタ ノードは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

- [ノード] → [HA Clusters] → [Clustered Nodes]
- [ノード] → [HA Clusters] → [<クラスタ名>] → [Nodes]

リソース グループは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

[ノード] → [HA Clusters] → [<クラスタ名>] → [Resource Groups]

コンソール ツリーの [ノード] フォルダにノードが追加されると、SI SPI によって CI SPI 検出ポリシーが起動されます。

CI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。検出されたクラスタ インフラストラクチャをグラフィカルに表示する CI SPI サービス マップを表示するには、[サービス] → [HA Cluster Infrastructure] を選択します。

## Quick Start ポリシーの HPOM for Windows からの配布

SI SPI 検出が正常に完了すると、検出されたノードは各 Infrastructure SPI ノード グループに自動的に追加されます。

このノード グループには、デフォルトで QuickStart ポリシーが割り当てられます。ノードがノード グループに追加されると、この QuickStart ポリシーは自動的に管理ノードに配布されます (ポリシーの自動配布が有効になっている場合)。

インフラストラクチャが検出され、サービス マップが HPOM for Windows 管理サーバーに設定されると、QuickStart ポリシーが自動的に管理ノードに配布されます (ポリシーの自動配布が有効な場合)。QuickStart ポリシーは、3 つの Infrastructure SPIs すべてで使用可能で、設定のカスタマイズに時間をかけずにすぐに使用できます。ポリシーの自動配布は、デフォルトで有効になっています。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前前で保存し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。

高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。これらのポリシーは、必要に応じて手動で配布できます。

ポリシーの自動配布をオフにした場合、Infrastructure SPIs によって提供される 2 つのポリシー グループのいずれかにアクセスすることで、QuickStart ポリシーを手動で配布できます。グループ化は、監視対象要素、およびベンダーとオペレーティング システムに基づいています。監視を目的としたグループでは、複数のオペレーティング システムを対象に、パフォーマンス、可用性、キャパシティ、ログ、セキュリティを監視するポリシーにアクセスおよび配布できます。たとえば、インフラストラクチャでスケジュールされたジョブ サービスの可用性を監視するには、以下の順に展開します。

[Infrastructure Management] → [< 言語 >] → [Systems Infrastructure] → [Availability] → [Scheduled Job Service]

ベンダー別にグループ化されたポリシーでは、1 つの場所からご使用のオペレーティング システムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。たとえば、管理ノードに配布する SI-RHELCronProcessMonitor\_ja\_JP ポリシーにアクセスするには、以下の順に展開します。

[Infrastructure Management] → [< 言語 >] → [Systems Infrastructure] → [Policies grouped by Vendor] → [RHEL - QuickStart] → [SI-RHELCronProcessMonitor]

# HPOM for UNIX - 作業の開始

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) で Infrastructure SPIs を初めて使用するには、以下の手順を実行します。

## 管理ノードの追加と SI SPI 検出の配布

管理ノードを追加して SI SPI 検出ポリシーを配布するには、以下の手順を実行します。

- 1 監視するノードを管理サーバーに追加します。これらのノードは登録ノードに表示されます。

SI SPI は、SI-Deployment ノード グループを作成し、このノード グループに次のポリシーを自動的に割り当てます。

- SI-SystemDiscovery\_ja\_JP
- SI-ConfigureDiscovery\_ja\_JP
- InfraSPI-Messages
- OPC\_OPCCMON\_OVERRIDE\_THRESHOLD
- OPC\_PERL\_INCLUDE\_INSTR\_DIR
- AUTO\_ADDITION\_SETTINGS

- 2 管理ノードを SI-Deployment ノード グループに追加します。

- 3 割り当てられたポリシーと Infrastructure SPI インストールメンテーションを管理ノードに配布 (分配) します。SI SPI ポリシーとポリシーを配布する方法の詳細は、『Systems Infrastructure Smart Plug-in ユーザー ガイド』を参照してください。



ゲスト仮想マシンを自動的に追加するには、AUTO\_ADDITION\_SETTINGS ポリシーの AutoAdd\_Guests パラメータを **True** に設定します。このパラメータはデフォルトでは False に設定されています。

## 仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

仮想化されたインフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、SI-SystemDiscovery\_ja\_JP ポリシーの配布です。

SI SPI 検出によってノードが仮想化ノードとして特定されると、VI SPI 検出ポリシーが自動配布されます。これらのノードで実行されている仮想マシンがそれぞれの Virtualization Infrastructure ノード グループの下に追加され、ベンダー固有の QuickStart ポリシーがこれらのノードに自動配布されます。

検出された管理ノードは、コンソール ツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

- [ノード] → [InfraSPI Managed Nodes] → [Hypervisor Hosts and Proxies]
- [ノード] → [Virtualization] → [<ベンダー名>]

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。サービス マップは、検出された仮想インフラストラクチャをグラフィカルに表示します。

## クラスタ インフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

クラスタ インフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、**SI-SystemDiscovery\_ja\_JP** ポリシーの配布です。

**SI SPI** 検出によって、クラスタ環境に関連するノード グループが作成され、クラスタ ノードとリソース グループが関連するノード グループに追加されます。

たとえば、ノードが **HP-UX** 上の **MCSG** クラスタである場合、**SI SPI** 検出によってそのノードは **CISPI-Deployment** および **CISPI-MCSG-HPUX** の各ノード グループに追加されます。リソース グループの場合は、**CISPI-RG** ノード グループに追加されます。

**SI SPI** 検出を実行したら、**CI SPI** 検出ポリシーを手動で **CISPI-Deployment** ノード グループに割り当ておよび配布します。

**CI SPI** 検出ポリシーによって、検出された要素が **HPOM** サービス マップに追加されます。検出されたクラスタ インフラストラクチャをグラフィカルに表示する **CI SPI** サービス マップを表示できます。

## Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX からの配布

**SI SPI** 検出が正常に完了すると、検出されたノードは各 **Infrastructure SPI** ノード グループに自動的に追加されます。

このノード グループには、デフォルトで **QuickStart** ポリシーが割り当てられます。ノードがノード グループに追加されると、この **QuickStart** ポリシーは自動的にノードに配布されます。次に、管理 GUI の **[アクション]** メニューから **[設定の配布]** を選択して、ポリシーをノードに手動で配布します。

**QuickStart** ポリシーは、3 つの **Infrastructure SPIs** すべてで使用可能で、設定のカスタマイズに時間をかけずにすぐに使用できます。ポリシーの自動割り当ては、デフォルトで有効になっています。

グループ化は、監視対象要素、およびオペレーティング システム/ベンダーに基づいています。監視を目的としたグループでは、複数のオペレーティング システムを対象に、パフォーマンス、可用性、キャパシティ、ログ、セキュリティを監視するポリシーにアクセスおよび配布できます。たとえば、インフラストラクチャでスケジュールされたジョブ サービスの可用性を監視するには、以下の順に選択します。

**[登録ポリシー] → [Infrastructure Management] → [ja] → [Systems Infrastructure] → [Availability] → [Scheduled Job Service]**

オペレーティング システムとベンダー別にグループ化されたポリシーでは、1 つの場所からご使用のオペレーティング システムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。たとえば、管理ノードに配布する **SI-CPUSpikeCheck** ポリシーにアクセスするには、以下の順に選択します。

**[登録ポリシー] → [Infrastructure Management] → [ja] → [Systems Infrastructure] → [Policies grouped by Vendor] → [RHEL - QuickStart Policies]**

オペレーティング システム別にグループ化されたポリシーには、**QuickStart** ポリシーと高度なポリシーの 2 つのサブグループがあります。**QuickStart** グループには、最もよく使用されるポリシーが含まれています。ディスク使用率ポリシーやディスク容量監視ポリシーなどの高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。以下の図に、ベンダー別にグループ化されたポリシーおよび **QuickStart** ポリシーと高度なポリシーのサブグループを示します。

Operations Manager Administration UI

ホーム OMU サーバ 管理者 ヘルプ

編集 参照 サーバ設定 検索 解析 配布 タスク 統合 サーバ

## ポリシー グループ "Infrastructure Management/ja/Systems Infrastructure/Poli

登録ポリシー / Infrastructure Management / ja / Systems Infrastructure / Policies grouped by Vendor

詳細 Policies grouped by Vendor フィルタ

12 個の要素が見つかりました

タイプ	名前	↑ 割り当て済み	モード	Smart
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">AIX - Advanced</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">AIX - QuickStart</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">HP-UX - Advanced</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">HP-UX - QuickStart</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">MS Windows - Advanced</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">MS Windows - QuickStart</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">RHEL - Advanced</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">RHEL - QuickStart</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">SLES - Advanced</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">SLES - QuickStart</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">Solaris - Advanced</a>		 	
<input type="checkbox"/>	 <a href="#">Solaris - QuickStart</a>		 	

↑ アクションを選択

## レポートとグラフの表示

Infrastructure SPIs によって収集されたデータからレポートとグラフを作成して表示するには、HP Reporter と HP Performance Manager をそれぞれ HPOM と連動して使用する必要があります。Infrastructure SPIs は、レポート用とグラフ用のデータを収集してデータストア内に格納します。データストアとしては、CODA (HP Operations Agent のデータストアで、組み込みパフォーマンスコンポーネントとも呼ばれる) または HP Performance Agent を指定できます。

VI SPI のレポートとグラフでは、HP Performance Agent が管理ノードにインストールされている必要があります。

HPOM for HP-UX、HPOM for Linux、または HPOM for Solaris でグラフを表示するには、最初に HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーに統合する必要があります。

## HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) サーバーを HP Performance Manager と統合するには、以下の手順を実行します。

- HP Performance Manager が HPOM サーバーにインストールされている場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh
install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

例: `install_OVPM.sh test.ovtest.com:8081`

- HP Performance Manager が HPOM サーバーに接続しているリモートシステムにインストールされている場合は、以下の手順を実行します。

a グラフテンプレートを HP Performance Manager がインストールされているリモートシステムから HPOM サーバーにコピーします。グラフのタイプとシステム上の場所を確認するには、『HP Performance Manager 管理者ガイド』を参照してください。

b HPOM サーバーで次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh
install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

例: `install_OVPM.sh test.ovtest.com:8081`

これらの手順によって、HPOM オペレータ GUI 内のイベントからグラフを起動する際に使用される HP Performance Manager のホストシステム設定が設定されます。

## SPI アップグレード後のレポートの更新

アップグレードの後、既存のレポートファイルは新しいレポートファイルと置き換えられます。レポートを更新するには、以下のコマンドを実行します。

- a [スタート] メニューに移動します。
- b [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- c プロンプトで、コマンドとして「**repcrys**」と入力し、[OK] をクリックします。

管理サーバー上のすべてのレポートが HP Reporter GUI 上のレポートと同期していることを確認します。Reporter GUI の [Reporter Status] タブをクリックして、レポートがコンソールに送信した番号、およびエラーメッセージがあればそれもチェックします。

## レポート用のデータ収集

VI SPI の場合、レポート用のデータ収集はポリシーの配布に依存しません。データは、管理ノードに配布された HP Performance Agent によって収集されます。

SI SPI と CI SPI 用に提供されるレポートは、ポリシーに依存します。以下の表に、レポート、および対応するレポートのデータを収集するために管理ノードに配布する必要があるポリシーを示します。

レポート	ポリシー	管理ノードのプラットフォーム	SPI
Last Logins/ Unused Logins	SI-MSWindowsLastLogonsCollector_ja_JP	Windows	Systems Infrastructure
Last Logins/ Unused Logins	SI-LinuxLastLogonsCollector_ja_JP	Linux	Systems Infrastructure
Failed Login	SI-MSWindowsFailedLoginsCollector_ja_JP	Windows	Systems Infrastructure
Failed Login	SI-UNIXFailedLoginsCollect_ja_JP	Linux、HP-UX、AIX、Solaris	Systems Infrastructure
Cluster Configuration	CI-ClusterDataCollector_ja_JP	Solaris Cluster、VCS Clusters、Service Guard、RHEL Cluster	Cluster Infrastructure
Cluster Uptime	CI-ClusterDataCollector_ja_JP	Solaris Cluster、VCS Clusters、Service Guard、RHEL Cluster	Cluster Infrastructure
Cluster System Availability	CI-ClusterDataCollector_ja_JP	Solaris Cluster、VCS Clusters、Service Guard、RHEL Cluster	Cluster Infrastructure

HPOM for Windows から Infrastructure SPIs のレポートを表示するには、コンソール ツリーで **[Reports]** → **[Infrastructure Management]** → **[<Systems/ HA Cluster/ Virtualization> Infrastructure]** の順に展開します。レポートを表示するには、HPOM コンソールで必要なレポートを選択して右クリックし、続いて **[レポートの表示]** を選択します。

図2 HPOM for Windows での Infrastructure SPIs 用のレポート



HP-UX、Linux、および Solaris オペレーティング システム向けの HPOM から Infrastructure SPIs 用のレポートを表示するには、HP Reporter を管理サーバーに接続されている別の (スタンドアロン) システムにインストールする必要があります。HP Reporter スタンドアロン システム上でレポートを表示するには、**[Reporter 管理] → [レポート] → [<Systems/ HA Cluster/ Virtualization> Infrastructure]** の順に展開します。



## 第5章 Infrastructure SPIs の削除



アンインストール手順では、カスタマイズされたポリシーを含むすべてのバージョンの **Infrastructure SPIs** ポリシーが管理サーバーから削除されます。

### ディスク領域の要件

**Infrastructure SPIs** を削除するには、管理サーバー上でほぼ **240 MB** の合計ディスク領域および一時フォルダとして **35 MB** の領域が使用可能なことを確認してください。

## Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール

以下のタスクを実行します。

### タスク 1: 管理ノードからの Infrastructure SPIs ポリシーの削除

以下の手順を実行します。

- 1 HPOM コンソール ツリーで、**[Operations Manager]** → **[ポリシー管理]** → **[ポリシー グループ]** → **[Infrastructure Management]** の順にフォルダを展開します。
- 2 **[Infrastructure Management]** を右クリックし、**[すべてのタスク]** → **[アンインストールする対象ノード ...]** の順に選択します。
- 3 **[ポリシーをアンインストールする対象ノード ...]** ダイアログボックスで、すべてのノードを選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。

すべてのポリシーがすべてのノードからアンインストールされるまで待機する必要があります。ポリシーのアンインストールのステータスは、**[配布ジョブ]** ウィンドウで参照できます。

### タスク 2: 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の削除

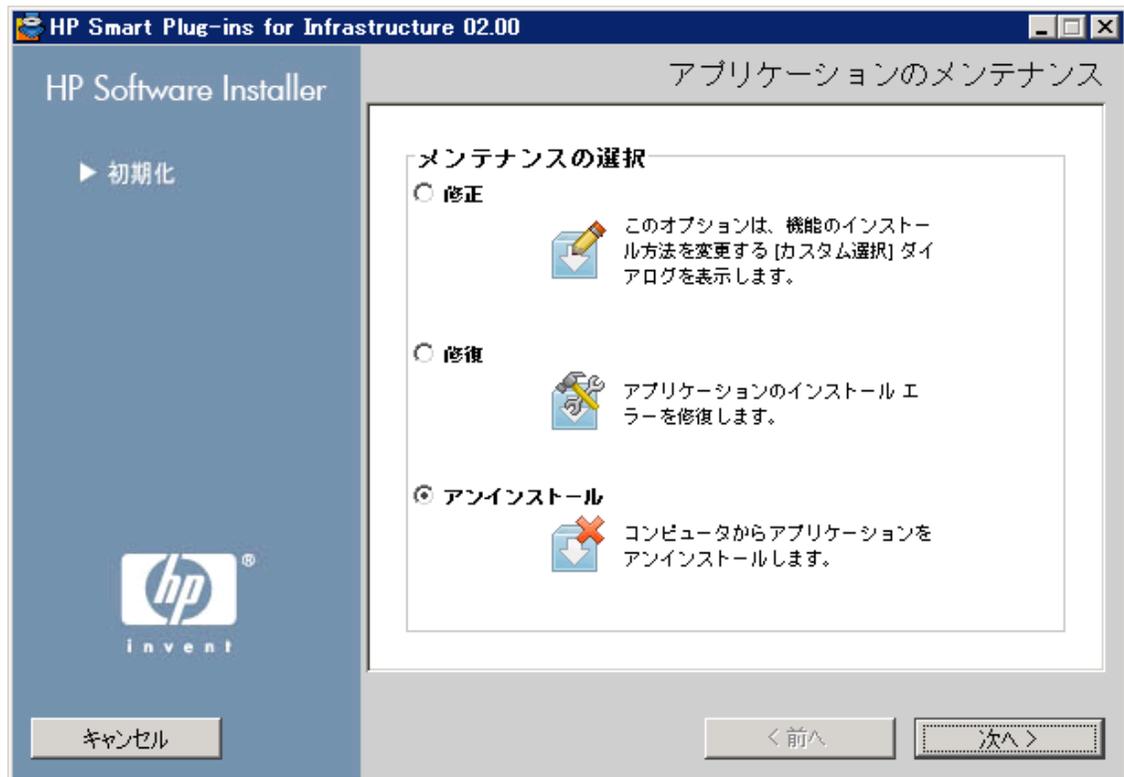
以下のいずれかの方法で、**Infrastructure SPIs** を **HPOM for Windows** 管理サーバーから削除できます。

## Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール

以下の手順を実行します。

- 1 コントロール パネルから **Infrastructure SPIs** のアンインストール ウィザードを起動するには、以下の手順を実行します。

- a [スタート] → [設定] → [コントロール パネル] の順に移動します。
  - b [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
  - c [HP Smart Plug-ins for Infrastructure] を選択し、[変更と削除] をクリックしてアンインストールします。
- または、HP Smart Plug-ins for Infrastructure DVD またはインストーラのディレクトリから Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動できます。
- a Infrastructure SPIs インストーラ パッケージを含む一時ディレクトリを開きます。
  - b HPInfraSPI\_setup.exe をクリックして、アンインストール ウィザードを起動します。
- 2 アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、[続行] をクリックします。  
[アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



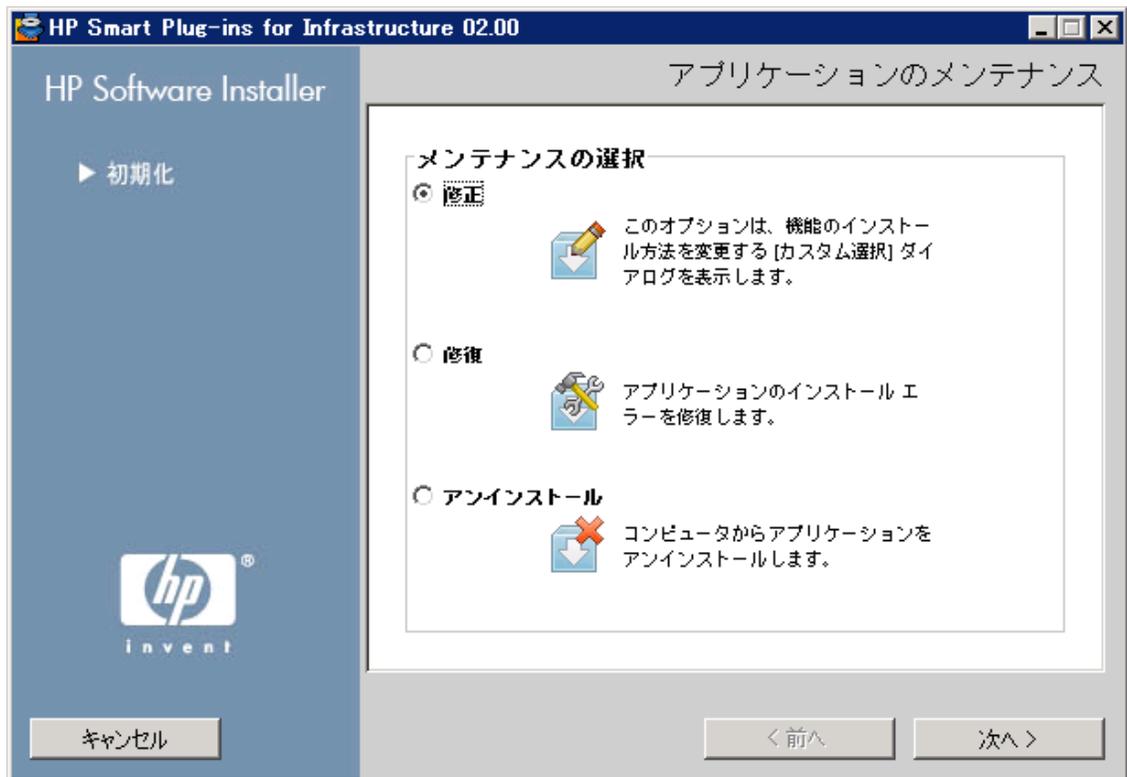
- 3 [アンインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。  
[プレ アンインストールの概要] ページが表示されます。
- 4 [アンインストール] をクリックします。ウィザードによって Infrastructure SPIs のアンインストールが開始されます。
- 5 [完了] をクリックして、アンインストールを完了します。

## Windows 管理サーバーからの個別の Infrastructure SPIs の有人アンインストール

以下の手順を実行します。

- 1 コントロール パネルから HP Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動するには、以下の手順を実行します。
  - a [スタート] → [設定] → [コントロール パネル] の順に移動します。
  - b [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。

- c [HP Smart Plug-ins for Infrastructure] を選択し、[変更と削除] をクリックしてアンインストールします。
- または、HP Smart Plug-ins for Infrastructure DVD またはインストーラのディレクトリから Infrastructure SPIs のアンインストール ウィザードを起動できます。
- a Infrastructure SPIs インストーラ パッケージを含む一時ディレクトリを開きます。
  - b HPIInfraSPI\_setup.exe をクリックして、アンインストール ウィザードを起動します。
- 2 アプリケーション要件チェック警告ボックスが表示されたら、[続行] をクリックします。  
[アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



- 3 [修正] を選択し、[次へ] をクリックします。  
[プレインストールの概要] ページが表示されます。
- 4 アンインストールする SPI を除き、継続するすべてのオプションを選択します。
- 5 [修正] をクリックします。ウィザードによって Infrastructure SPIs のアンインストールが開始されます。  
この段階で、選択された SPIs、レポート パッケージ、およびグラフ パッケージは既にインストールされているため、無視されます。選択されていない SPI がアンインストールされます。
- 6 [完了] をクリックして、個々の SPI のアンインストールを完了します。

## Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール

以下の手順を実行します。

- 1 Windows コマンド プロンプトを開き、ディレクトリを C:\Program Files\HP\HP BTO Software\Uninstall\HPInfraSPI に変更します。

- 2 以下のコマンドを実行します。

```
setup.exe -DUNINSTALL -i silent
```

## UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール

このプロセスでは、Infrastructure SPIs のポリシーを含む、Infrastructure SPIs のインストール内容が HPOM 管理サーバーから完全に削除されます。カスタマイズ (Infrastructure SPIs のデフォルト ポリシーのコピー) されているポリシーが他の HPOM ポリシー グループに属していても同様に削除されます。以下の手順に従って適切に削除してください。

### タスク 1: 管理ノードからのポリシーの削除

以下の手順を実行します。

- 1 管理者として HPOM にログオンします。HPOM 管理者 UI が表示されます。
- 2 [参照] メニューから [すべてのポリシー割り当て] を選択します。[すべてのポリシー割り当て] ウィンドウが開きます。
- 3 [すべてのポリシー割り当て] ウィンドウで、ポリシーに対する [割り当てモード] チェック ボックスをオンにして、ノードまたはノード グループから削除するポリシーまたはポリシー グループを選択します。
- 4 [アクションを選択] ボックスから [割り当てを削除...] を選択して、[submit] をクリックします。操作を元に戻すことができないことを示す、メッセージ ウィンドウが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 ノードから選択されたポリシー割り当てが削除されます。
- 7 HPOM 管理 UI から、登録オブジェクト カテゴリ下の [登録ノード] をクリックします。[登録ノード] ウィンドウが開きます。
- 8 [登録ノード] ウィンドウで、ポリシーを削除するノードまたはノード グループを選択します。
- 9 [アクションを選択] ボックスから [このグループから割り当て解除...] を選択して、[submit] をクリックします。
- 10 選択したノードからポリシーが削除されます。

### タスク 2: 管理サーバーからの Infrastructure SPIs の削除

以下のいずれかの方法を使用して、Infrastructure SPIs を HPOM for UNIX 管理サーバーから削除できます。

## UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール

以下の手順を実行します。

- 1 root としてログオンし、ターミナル ウィンドウを開きます。
- 2 ターミナル ウィンドウで、以下のように入力して、DISPLAY 環境変数が使用しているワークステーションに正しく設定されていることを確認します。

```
echo $DISPLAY
```

DISPLAY 環境変数が正しく設定されていない場合、正しく設定してコンソールの GUI が正しく表示されるようにします。

```
export DISPLAY=<Infrastructure SPIs のインストール元のローカル システムの IP アドレスまたはホスト名>:0.0
```

- 3 ディレクトリを /opt/OV/Uninstall/HPInfraSPI に変更します。
- 4 システム上で **X Window** (または **X11 System**) クライアントを起動します。**X Window System** クライアントは、インストール用のグラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) を表示するために必要です。たとえば、**Reflection X** を使用できます。
- 5 以下のコマンドを実行します。  

```
./setup.bin
```
- 6 **[アンインストール]** を選択します。ウィザードによって **Infrastructure SPIs** のアンインストールが開始されます。
- 7 画面の指示に従い、**[次へ]** と **[アンインストール]** の各ボタンを使用してアンインストール プロセスを進めます。
- 8 **[完了]** をクリックして、アンインストールを完了します。

## コマンド行インタフェースを使用した UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の有人アンインストール

以下の手順を実行します。

- 1 ディレクトリを /opt/OV/Uninstall/HPInfraSPI に変更します。

- 2 以下のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -i console
```

以下のメッセージが表示されます。続行するには、<ENTER> を押してください。

- 3 **[Enter]** を押して続行します。

変更、修復、またはアンインストールのオプションが表示されます。

- 4 「3」と入力して、アンインストールを選択します。

以下のメッセージが表示されます。続行するには、<ENTER> を押してください。

- 5 **[Enter]** を押して続行します。

アンインストールが完了すると、アンインストールが正常に完了したことを示すメッセージを受信します。

## UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs の無人アンインストール

コマンド プロンプトから **Infrastructure SPIs** の無人アンインストールを実行するには、以下のコマンドを実行します。

```
/opt/OV/Uninstall/HPInfraSPI/setup.bin -i silent
```

## クラスタ サーバー環境からの Infrastructure SPIs の削除

クラスタ環境から **Infrastructure SPIs** を削除するには、必要に応じて、「**Windows 管理サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール**」(53 ページ) または 「**UNIX サーバーからの Infrastructure SPIs のアンインストール**」(56 ページ) の項の手順を実行します。

1 台の管理サーバーでのアンインストールが完了したら、クラスタ内の次の管理サーバーに進みます (クラスタ内の任意の管理サーバーを選択して、アンインストールを開始できます)。

アンインストールが完了すると、通知されます。

アンインストールを行うと、**Infrastructure SPI 2.0** のノード グループ、ポリシー グループ、インストールメンテーション フォルダはすべて削除されます。



**Virtualization Infrastructure** や **HA Cluster Infrastructure** などの最上位レベルのサービス要素は削除されません。ただし、関連する **SPI モデル** は削除されます。サービス マップは、関連する検出ポリシーがすべてのノードから配布解除された後にクリーンアップされます。

## We appreciate your feedback!

If an email client is configured on this system, by default an email window opens when you click on the bookmark “Comments”.

In case you do not have the email client configured, copy the information below to a web mail client, and send this email to **docfeedback@hp.com**

**Product name:**

**Document title:**

**Version number:**

**Feedback:**

